

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の2万9千点以上の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年違ったテーマを設定し、収蔵品で構成するコレクション展。今年は「技法と表現」をテーマに約半年にわたって三部構成で連続展覧会を開催した。図録の代わりとして平凡社一般書籍として『光と影の芸術 写真の表現と技法』を出版した。

また、第11回東江国際写真祭の要請により、「東京都写真美術館コレクション展 日本の写真1960年代～1970年代を中心に」展を韓国・東江写真博物館で平成24年7月20日（金）から10月1日（月）まで開催した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試みの第四弾として、関東編、中部・近畿・中国地方編、四国・九州・沖縄編に引き続き、「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」展を開催した。この展覧会は北海道立函館美術館（平成25年5月18日（土）～7月14日（日））、鶴岡アートフォーラム（平成25年7月20日（土）～8月25日（日））、郡山市立美術館（平成25年11月2日（土）～12月15日（日））に巡回する予定である。

③ 新規重点収集作家個展

新規重点収集作家である田村彰英の個展「田村彰英 夢の光」展を開催した。図録の代わりとして日本カメラ社から同名写真集を一般書籍として出版した。

また、同じく新規重点収集作家である北井一夫の個展「北井一夫 いつか見た風景」展を開催した。図録の代わりとして冬青社から同名写真集を一般書籍として出版した。この展覧会で、北井氏は日本写真協作家賞を受賞した。

④ 映像展の展開

写真美術館の映像コレクションの5つの指針であるテーマを毎年取り上げるシリーズとして「映像をめぐる冒険」展を平成20年にスタートさせ、第5回として「記録としての映像」をテーマに「記録は可能か。」展を開催し、収蔵作品に現代作品を加え、映像の歴史を遡りながらその今日的役割を考察した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。また、国内外の美術館等と共同企画し、他館への巡回展を実施した。

① 中堅作家の個展

2000年代を代表する作家の一人として若い世代を中心支持されている川内倫子の個展「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」展を開催した。図録の代わりとして青幻舎から同名写真集を一般者として出版した。なおこの展覧会により川内氏は平成24年度（第63回）芸術選奨文部科学大臣新人賞と第29回東川賞国内作家賞を受賞した。

また、広告写真界の鬼才、操上和美の個展「操上和美 時のポートレイト」展を開催した。

前年度に開催した「畠山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」展は、館発の企画展として、オランダのアムステルダム、Huis Marseille, Museum for Photographyに平成23年12月16日（金）から平成24年2月26日（日）まで巡回し、その後、平成24年7月28日（土）から11月4日（日）までサンフランシスコ近代美術館で開催された。

② 国際展

第一次、第二次世界大戦を挟んで『ハーバース・バザー』や『ヴォーグ』等のファッション誌を中心に活躍した、アーウィン・ブルーメンフェルド（1897-1969年、独→米）の国内初の個展「アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密」展をブルーメンフェルドのご遺族の全面的な協力を得て実現した。

③ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ。第11回として、「日本の新進作家 vol.11 この世界とわたしのどこか」展を開催した。また、この展覧会の一部は、香港芸術写真協会の要請により、香港国際写真フェスティバル2012「パラレル・ヴィジョンズ：日本と韓国の現代写真」展（平成24年10月14日（日）～11月4日（日）、香港藝術中心）として日本に先立ち公開した。なおこの展覧会によって、菊地智子氏に第38回木村伊兵衛写真賞が贈られた。

④ 恵比寿映像祭

「東京文化発信プロジェクト」の基幹事業である恵比寿映像祭。第5回目となる今年は「パブリック⇄ダイアリー」を総合テーマに、全館を使い、展示、上映、野外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント、地域連携プロジェクトなど、多彩なプログラムを実施した。

◇誘致展

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業
収蔵展

幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界
Vision of the Modernist The Universe of Photographer
HORINO Masao

期 間 平成24年3月6日（火）～5月6日（日）
32日間（平成24年4月1日以降の開館日数）
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／
美術館連絡協議会
協 賛 ライオン株式会社／清水建設株式会社／
大日本印刷株式会社/株式会社損害保険ジャパン
出品作品数 207点

堀野正雄（1907-1998）は、日本における近代写真の成立と展開に重要な役割を果たした写真家である。その活動について、一部の関係者に知られ、評価されることはあってもその全体像については検証されてはこなかった。本展は、遺族のもとに残されたプリントを中心に、当時の雑誌などの資料を併せて207点展示した。写真家堀野正雄の幅広く多彩であったにもかかわらず失われた活動の軌跡を検証することによって、1930年代に日本の写真史に新たなヴィジョンの構築を目指した。

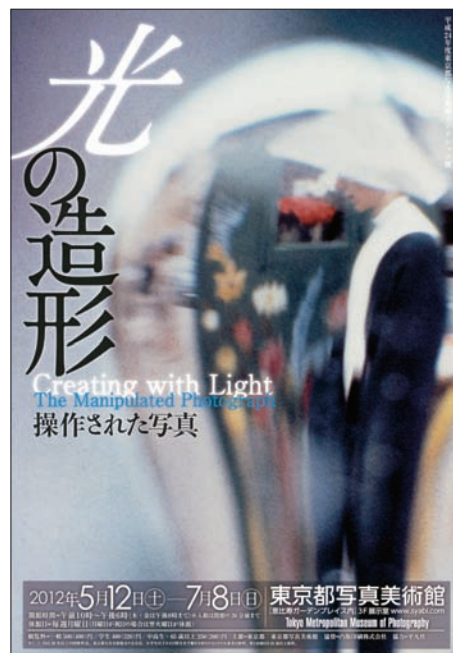


平成24年度東京都写真美術館コレクション展
光の造形～操作された写真～
Creating with Light The Manipulated Photograph

期 間 平成24年5月12日（土）～7月8日（日）
50日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 平凡社
出品作品数 123点

2万9千点を超える収蔵写真作品を有効に活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で、継続的に取り組んできたコレクションによる企画展を行った。今回は、写真の黎明時から、作品にさまざまな工夫を施してきた作家たちの技法に焦点をあてた3部構成とした。

第1部となるこの展覧会ではマニピュレーション（操作）をテーマとし、さまざまな目的で、撮った写真をそのままプリントにするだけではなく、その過程で、加える（彩色写真<横浜写真>など）、イメージを組み合わせる（コラージュ、フォトモンタージュ、多重露光、リフレクション、雑巾がけ）、切り取る（トリミング）といった技術を使った作品を展示した。

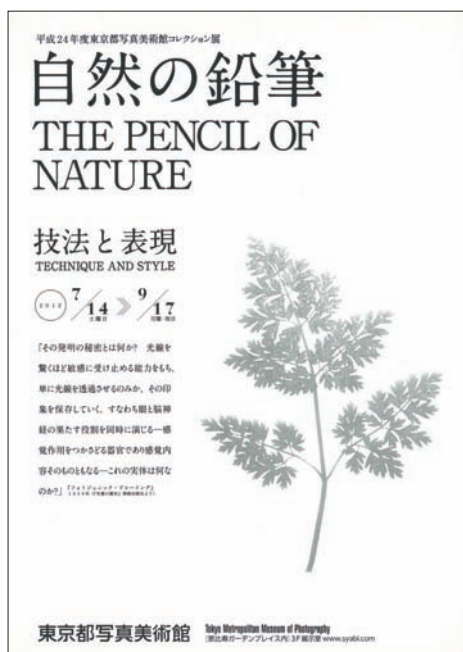


平成24年度東京都写真美術館コレクション展 自然の鉛筆 技法と表現

The Pencil of Nature Technique and Style

期 間 平成24年7月14日（土）～9月17日（月・祝）
57日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 平凡社
出品作品数 180点

第2部となる本展では写真印画の技法と写真表現はどのように影響しあったか、写真史の変遷に基づき紐解いた。写真術の発明はフランスのルイ・ジャック・マンデ・ダゲール、イギリスのウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットのふたりによってほぼ同時期に発明されたが、本展では、タルボットが発見したネガ・ポジ法による写真技法を展覧会の大きな柱とし、導入部分に据えた。その原理による写真術の将来性を、タルボットが世界に知らしめる目的で制作した写真集『自然の鉛筆』のオリジナルとモダン・プリントによる復刻版の両方を全て公開。その後に展開するアナログ写真の技法と表現の豊かさを、コレクションによって紹介した。

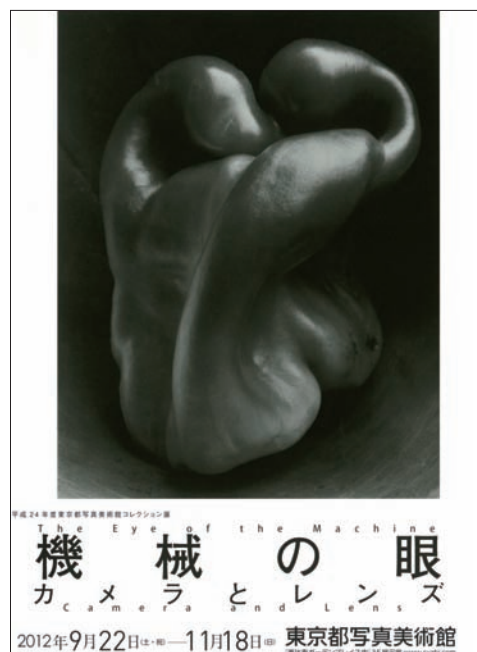


平成24年度東京都写真美術館コレクション展 機械の眼 カメラとレンズ

The Eye of the Machine : Camera and Lens

期 間 平成24年9月22日（土・祝）～11月18日（日）
50日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 平凡社
出品作品数 168点

1920～30年代に成立した近代写真の動向は、カメラとレンズそして感光材料がもつ「機械性」に拠って、多彩な表現を展開した。大型カメラを使いレンズの精密な描写力を追求したエドワード・ウェストン、ライカ・カメラを「眼の延長」として駆使して、揺れ動く現実の瞬間を切り取ったアンリ・カルティエ=ブレッソンや木村伊兵衛、望遠レンズや広角レンズの視覚をカメラがもたらすもう一つの現実としてとらえ、特異なイメージを駆使した表現、極端なアングルや長時間露光、ブレの効果、顕微鏡や望遠鏡の視覚、パン・フォーカスとディファレンシャル・フォーカスなどカメラとレンズによってもたらされる視覚世界は、人間の眼とは似て「非」なるものと言える。第3部となる本展では、19世紀から現代に至る「カメラ」という視覚装置がもたらした多彩な表現を、コレクション作品と資料から紹介。時代を超えて写真表現の可能性が何によって支えられているのか、カメラを持つことが人間にどのような可能性をもたらすのかを探求した。



田村彰英 夢の光

Tamura Akihide Exhibition Light of Dreams

期 間 平成24年7月21日(土)～9月23日(日)
56日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／
美術館連絡協議会
助 成 芸術文化振興基金
協 賛 ライオン株式会社／清水建設株式会社／
大日本印刷株式会社／株式会社損害保険ジャパン／
日本テレビ放送網株式会社
協 力 日本カメラ社
出品作品数 115点

東京総合写真専門学校在学中から、同校の校長であり写真評論家の重森弘淹にその才能を高く評価された写真家・田村彰英の個展。田村は1960年代後半から70年代前半にかけて米軍基地を撮影した〈BASE〉が、社会的・政治的文脈を排除したきわめて感覚的な映像として注目され、以後、カメラ雑誌などで作品を発表するようになった。

1980年代から90年代にかけては、変容が進む都市の景観を記録したシリアスな作品を精力的に発表し、田村は常に日本の現代写真の第一線で活躍し続けてきた。本展は、国内の米軍基地を撮影した幻の名作〈BASE〉のほか、未発表作品を含む115点の作品で創作活動の軌跡をたどり、時代を経ても色あせない田村彰英の写真世界を紹介した。



北井一夫 いつか見た風景

Kitai Kazuo Somehow Familiar Places

期 間 平成24年11月24日(土)～平成25年1月27日(日)
53日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社
協 力 ギャラリー冬青
出品作品数 205点

日本を代表する写真家の一人でもある北井一夫の個展。学生時代の作品から現在の最新作のシリーズ「道」まで、現時点までの回顧展とした。初期の代表作「バリケード」、「三里塚」などは当時の社会を象徴する代表的な事件を扱うルポルタージュ性の強い作品ではあるが、バリケードの中に立てこもる学生や成田闘争に参加した農民を、内側から捉えた姿は、同じ事件を撮影した多くの写真とは一線を画した作品であった。その後始まった「村へ」、「いつか見た風景」は失われていく日本の農村の原風景を捉えた作品で北井の代表作となり、彼の評価を確実なものとした。その後東京のベッドタウンの一つの船橋市の市民の生活を撮った「フナバシストーリー」は、新興住宅街の生活を明るく、軽いイメージで捉えたものである。北井の作品は様々な作風に変化しているようにも思えるが、常に時代と向き合うような視点であることにはかわりはない。人の生活を捉えた風景はどんな世代の人にも、それぞれが持つ心の中の原風景のように感じられたらだろう。



映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。
Quest for Vision vol.5 Spelling Dystopia

期 間 平成24年12月11日(火)～平成25年1月27日(日)
 39日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社／
 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川／
 早大博演劇映像学連携研究拠点平成24年度公募研究
 「映画以後」の幻灯史に関する基礎的研究／
 神戸映画資料館／映画美学校／調布市立図書館
後 援 ドイツ文化センター／サンケイスポーツ／タ刊フジ／
 フジサンケイビジネスアイ／iza！／
 SANKEI EXPRESS
出品作品数 74点

「記録としての映像」を主題に社会と芸術表現の接点を考える映像作品を広く紹介した。美術館の幻灯機コレクションと共に、戦後の社会運動の中で制作された日本の幻灯の一例を研究者の協力によりデジタル版にて公開。収蔵作家・金坂健二を中心に政治と文化が交差する1960～70年代の映像作品や、日本の歴史や社会事象を鋭く観察するドイツの2人組、ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニの作品を展示し、今日の映像表現の可能性を考察した。



夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史
北海道・東北編
Dawn of Japanese Photography [Hokkaido and tohoku]

期 間 平成25年3月5日(火)～5月6日(月・祝)
 24日間(平成25年3月31日までの開館日数)
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
 美術館連絡協議会
協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／
 日本テレビ放送網ほか
協 力 日本大学芸術学部
出品作品数 502点(会期中展示替えあり)
巡 回 北海道立函館美術館(平成25年5月18日(土)～
 7月14日(日))、鶴岡アートフォーラム(平成25年
 7月20日(土)～8月25日(日))、郡山市立美術館
 (平成25年11月2日(土)～12月15日(日))

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」の第四弾。幕末の開国と時を同じくして日本にもたらされた「写真」は、西洋技術の象徴であった。横浜や長崎などが開港し、訪日する写真師との関わりから、江戸の鵜飼玉川や開港地の上野彦馬・下岡運杖など、日本人の写真師が各地に現れ、西洋的近代化へ向かう社会情勢とともに、その技術はさらに次の世代へと伝承されていく。本展では、北海道・東北の公開機関を持つ約2,400の施設へ収蔵調査を行い、所蔵が明らかになった多くの未公開作品、当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品によって、関東編、中部・近畿・中国地方編に引き続き、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料をくであい〈まなび〉〈ひろがり〉三部構成で展覧した。



展覧会事業
自主企画展

J・ポール・ゲティ美術館コレクション展
フェリーチェ・ベアトの東洋

Collection from THE J. PAUL GETTY MUSEUM AT THE GETTY CENTER *Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road*

- 期 間 平成24年3月6日（火）～5月6日（日）
32日間（平成24年4月1日以降の開館日数）
- 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
- 協 賛 凸版印刷株式会社／アサヒビール芸術文化財団／
東京都写真美術館支援会員
- 協 力 日本航空
- 特別助成 アメリカ合衆国大使館
- 出品作品数 136点

フェリーチェ・ベアト（1832-1909）は幕末に日本を訪れ、20年以上の長きにわたって横浜に滞在した写真師。フェリーチェ・ベアトの仕事は、没後100年を経た今でも19世紀のアジアを詳らかにするタイムカプセルそのものといえよう。本展は昨年、アン・ラコステ氏によって企画され、ロサンゼルスにJ・ポール・ゲティ美術館で開催された展覧会の国際巡回であり、フェリーチェ・ベアトの生涯にわたる仕事全体を広く見渡す日本初のレトロスペクティブとなった。



川内倫子展

照度 あめつち 影を見る

Kawauchi Rinko: Illuminance, Ametsuchi, Seeing Shadow

- 期 間 平成24年5月12日（土）～7月16日（月・祝）
57日間
- 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社
- 助 成 公益財団法人アサヒビール芸術文化財団
- 協 賛 富士フイルム株式会社／東京都写真美術館支援会員
- 協 力 アサヒビール株式会社／スガアート／フルハウス／
Foundation d'entreprise Hermès
- 後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ/iza!／
SANKEI EXPRESS
- 出品作品数 78点

2000年以降の時代を代表する写真家として若い世代を中心に支持され、国際的にも活躍する川内倫子の個展。首都圏の美術館で初めての個展となった本展は、作家の代名詞となる写真スタイル、6×6cmのフォーマットによる近作の写真シリーズを中心とした《Illuminance》、初公開となる最新作《あめつち》《影を見る》他からなる写真／映像作品78点の展示構成によって、川内倫子の作品世界の魅力と本質、そして新たな展開を示した。



操上和美 時のポートレート ノスタルジックな存在になりかけた時間。

Kurigami Kazumi - portrait of a moment

- 期 間** 平成24年9月29日（土）～12月2日（日）
56日間
- 主 催** 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／朝日新聞社
- 協 賛** LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン株式会社
タグ・ホイヤー ディヴィジョン／TUGBOAT／
株式会社ジョン ロブ ジャパン／
株式会社 聖林公司／ライカカメラジャパン株式会
社／株式会社ピラミッドフィルム／
東京都写真美術館支援会員
- 協 力** 株式会社サイバグラフィックス／
株式会社写真弘社／
フォト・ギャラリー・インターナショナル／
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社／
有限会社イマジン・アートプランニング

出品作品数 70点

広告写真界の鬼才、操上和美（1936～）の個展。作家は日産“フェアレディZ”、サントリー“オールド”をはじめとするコマ
ーシャルフォト、井上陽水のレコードジャケット、大江健三郎
のポートレートなど、1970～80年代のコマーシャル、グラ
フィック、エディトリアル等のメディア芸術を一新し、広告表
現の新たな可能性を切り拓いた。また映画『ゼラチンシルバー
LOVE』では視覚表現の映像化にも挑戦した。

本展では、操上が1970年代から自らの作品として撮り続け
てきた日常的なスナップショットから鮮烈な美意識に貫かれ
た写真眼に迫った。写真家の視線と感性を表出した『陽と骨』
（1984）、故郷へとむかう旅を通じて観る者を熟成された時間
や記憶へと誘う『NORTHERN』（2002）等、ライフワーク
数万点の中から70点を選出し、あえて簡易な複写法で身近な風
景を「視覚」へと変換した『Diary』（2005）、2010年発表
の『陽と骨II』（2010）と共に、展示室をひとつの表現として
空間を構成し作品を配した。操上のコマ
ーシャルやエディト
リアル・ワークを館内カフェやロビーで閲覧できるようにし、作
家を3年以上追い続けたドキュメンタリー映画を上映するなど、
作家の多面的な活動を合わせて紹介した。



日本の新進作家vol.11 この世界とわたしのどこか
 somewhere between me and this world
 Japanese contemporary photography vol.11

期 間 平成24年12月8日(土)～平成25年1月27日(日)
 41日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
 館/東京新聞
協 賛 株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャ
 パン/富士フィルムイメージングシステムズ株式会
 社/凸版印刷株式会社/東京都写真美術館支援会員
協 力 フォトグラファーズ・ラボラトリー/
 フォト・ギャラリー・インターナショナル/
 株式会社カシマ
出品作品数 91点
巡 回 香港国際写真フェスティバル2012「パラレル・
 ヴィジョンズ：日本と韓国の現代写真」展(平成24
 年10月14日(日)～11月4日(日)) 香港藝術中心

毎年異なるテーマを決めて開催している「日本の新進作家」展。11回目となる今回は、香港写真芸術協会からの要請に応じ、香港での展覧会を日本に先駆けて開催、好評を得た。
 大震災や経済の低迷などにより、社会環境が不安定化する現在、様々な問題が山積し、既存の価値観が大きく変化している。そうしたなかで、日本の現代作家たちはそれぞれが自分の足下を見つめながら自らの課題と格闘し、独自の世界を創造している。個人と社会の関わりを考えながら表現を模索する、今もっとも勢いのある新進作家、大塚千野、菊地智子、蔵真墨、笹岡啓子、田口和奈という5人を取り上げて、日本の「今」を浮かび上がらせようとする試み。



アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密
 Erwin Blumenfeld: a hidden ritual of beauty

期 間 平成25年3月5日(火)～5月6日(月・休)
 24日間(平成25年3月31日までの開館日数)
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
 館/朝日新聞社
協 賛 株式会社資生堂/凸版印刷株式会社/
 東京都写真美術館支援会員
協 力 セレクションD. P. I.
出品作品数 290点

『ハーバース・バザー』や『ヴォーグ』等のファッション誌を中心に、第一次、第二次世界大戦を挟んで活躍した、アーウィン・ブルーメンフェルド(1897-1969年、独→米)の日本初の個展。欧米ではファッション・ポートレイト全盛期の旗手としてポンピドゥー美術館(パリ、1981年)、パーピカンセンター(ロンドン、1996年)の個展などで高い評価を得ているブルーメンフェルドだが、重要な作品が各国の美術館に散在していることから、これまで日本国内で全貌を紹介する機会がなかった。今回、ブルーメンフェルドのご遺族、関係者によって、1930年代のヴィンテージ・プリントや作家自身が選出した名作100点、カラー復元された美しいファッション写真などが集められた。本展覧会はパリのジュ・ドゥ・ポーム美術館に先んじ、それらの資料から独自の視点で構成した290点の作品群を展示した。シュルレアリスムからヌード、ファッションまで網羅し、多くの写真家に影響を与えたブルーメンフェルドの表現だが、そこには二大戦に翻弄され、時代に応じて活動の場を選択せざるを得なかった作家の苦悩が存在する。作家の人生、活動を通し、時代背景、思想などに視点を向け、美しい表現の根底にある精神、華やかな表現に隠された美の秘密に迫った。



第5回 恵比寿映像祭 「パブリック⇄ダイアリー」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2013 : PUBLIC ⇄ DIARY

期 間 平成25年2月8日(金)～2月24日(日) 15日間
主 催 東京都/東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)/日本経済新聞社
共 後 援 サッポロ不動産開発株式会社
 アメリカ大使館/ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館/J-WAVE 81.3FM
助 成 公益信託タカシマヤ文化基金
協 賛 サッポロビール株式会社/
 東京都写真美術館支援会員
協 力 イスラエル大使館/Artis/東京造形大学 CSLAB/
 NECディスプレイソリューションズ株式会社/
 東芝ライテック株式会社
 東芝エルティーエンジニアリング株式会社/
 カラーキネティクス・ジャパン株式会社/
 KyotoDU/びあ株式会社/
 株式会社アマナイメーجز/株式会社北山創造研究所/
 株式会社トリプルセブン・インタラクティブ/
 株式会社ロボット
出品作品数 展示作品:31点/上映:66本/オフサイト 11作品/ライブ:1作品(計99作品)

プログラマー:森宗厚子 ⑫日記とコミュニケーション—大江崇允《適切な距離》 ⑬⑭追悼マイク・ケリー《MOBILE HOMESTEAD》 ⑮スペシャルトーク 下層階級のアナキスト—マイク・ケリーは何を遺したのか ※参考上映付

【イベント】

プログラム:ライブ・イベント | 石田尚志《恵比寿にて〜間奏》(出演:石田尚志、ピアノ演奏:寒川晶子) シンポジウムA | フェスティヴァルとパブリック(パネリスト:ジェイ・サンダース、ハフィズ、岡村恵子/モデレーター:田坂博子) シンポジウムB | パブリック⇄ダイアリーをめぐって(クリストファー・ベイカー、シェイラ・カメリッチ、鈴木康広/モデレーター:岡村恵子) レクチャーC | パブリック・ダイアリー:イスラエル(ゲスト:ニール・エヴロン、ドール・ゲズ、マーヤン・シェレフ) レクチャーD | CALFとインディペンデント・アニメーションの現在(ゲスト:土居伸彰、水江未来、大山慶、和田淳)

【ラウンジトーク】

ゲスト:宮永亮/ザ・プロペラ・グループ/ヒト・スタヤル/ベン・リヴァース/野口靖/野口久美子、平川紀道、森浩一郎/住吉智恵、山口崇司/川口隆夫/金子隆一/鈴木康広/グエン・チン・ティ

【地域連携プロジェクト】

参加施設・団体:公益財団法人日仏会館/NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P gallery/TOKIO OUT of PLACE/GALLERY 工房親/MA2 Gallery/gif_lab/LIBRAIRIE 6/リムアート/TRAUMARIS/waitingroom/特定非営利活動法人アーツインシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] /amu

※本事業は東京文化発信プロジェクトの一環として開催した。

「パブリック⇄ダイアリー」を総合テーマに、18カ国より80名の作家およびゲストの出品・参加を受け、全館を用いて展示、上映、シンポジウム、レクチャー、トークなど多彩なプログラムを展開した。また隣接する恵比寿ガーデンプレイス・センター広場における野外展示プロジェクトや、ザ・ガーデンルームを会場としたライブ・イベント、さらに恵比寿近隣地域の各文化発信拠点との連携による共催プログラムも実施した。

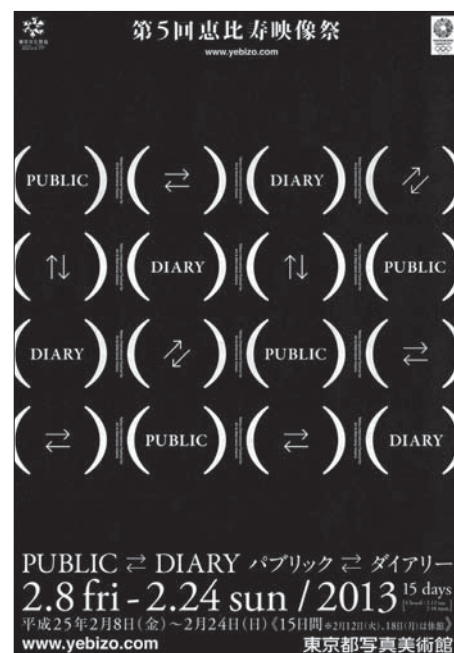
【展示】出品作家・内容:マンゴ・トムスン/『写真週報』/クリストファー・ベイカー/ヒト・スタヤル/野口靖/クリスチャン・ヤンコフスキー/河原温/シェイラ・カメリッチ/荒木経惟/宮永亮/ベン・リヴァース/木村太陽/野口久美子 平川紀道 森浩一郎/ザ・プロペラ・グループ/ジェレミー・デラー/ワリッド・ラード/川口隆夫

【オフサイト・プロジェクト】

出品作家:鈴木康広

【上映】

プログラム:①ハーモニー・コリン参加オムニバス《フォース・ディメンション》 ②日常へのまなざし《祈-Inori》 ③西アフリカ・ポストコロナルのトラペローグ《希望の旅路》 ④ベン・リヴァース長編《湖畔の2年間》 ⑤刻みこまれた記憶—シェイラ・カメリッチ特集 ⑥メビウスの輪を旅して—ヒト・スタヤルのイメージ論 ⑦日本新進映像作家たち 福崎星良・告畑綾・小森はるか ⑧ソングス・フォー・レント—実験映像の現在(プログラマー:ジェイ・サンダース) ⑨約束の地—イスラエル現代アーティスト特集(プログラマー:マーヤン・シェレフ) ⑩パブリック・リビング—ヴェトナム・ドキュメンタリー特集(プログラマー:グエン・チン・ティ、リンク:ハノイ・ドックラボ) ⑪生命の描線—アニメーションと日記(プログラマー:土居伸彰(CALF)、共同プ



展覧会事業
誘致展

生誕100年記念写真展
ロベール・ドアノー
Robert Doisneau RETROSPECTIVE

期 間 平成24年3月24日(土)～5月13日(日) 38日間(平成24年4月1日以降の開館日数)

主 催 クレヴィス

共 催 東京都写真美術館

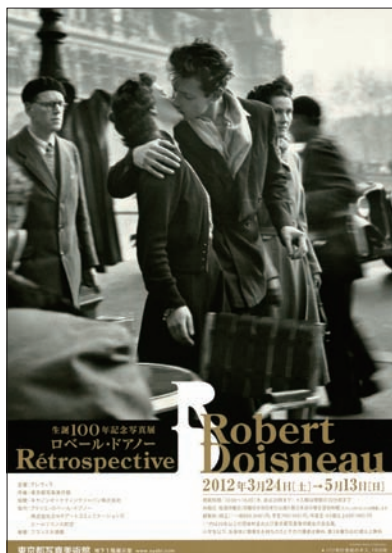
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

協 力 アトリエ・ロベール・ドアノー/株式会社DNPアートコミュニケーションズ/エールフランス航空

後 援 フランス大使館

ロベール・ドアノーの生誕100年にあたる2012年を機に、彼の残したネガ作品を管理保管する目的でドアノーの遺族によって創設されたアトリエ・ロベール・ドアノーの全面協力のもと、その業績を一望にする大規模な回顧展として開催した。

ドアノーが残した約40万点にも及ぶネガから精選した190点で展覧し、ドアノーの代名詞とも言えるパリを舞台にした代表作や、1920年代の初期作品、第二次大戦中、自らも参加していたレジスタンスの活動の記録、文化人たちのポートレートなどを展示し、写真家・ロベール・ドアノー創造の秘密に迫った。



第37回写真公募展
日本写真家協会展
2012 THE 37th EXHIBITION OF THE JPS

期 間 平成24年5月19日(土)～6月3日(日) 14日間

主 催 公益社団法人日本写真家協会

共 催 東京都写真美術館

後 援 文化庁

1976年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まった写真コンテストの受賞・入選作品展で、今回で37回をむかえた。文部科学大臣賞に川口新実の「竜宮への入口」、金賞に和田誠の「鼓動」、銀賞に千田俊輔の「例えば」、寺田功子の「元氣村」、銅賞に河田和子の「夢の扉」、常川真の「昆虫の日常と人間の日常」、後藤忠彦の「ダンディ」がそれぞれ受賞した。併せて会員60人の作品も展示した。



世界報道写真展2012
WORLD PRESS PHOTO 2012

期 間 平成24年6月9日(土)～8月5日(日) 50日間

主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社

共 催 東京都写真美術館

後 援 オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会

協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが毎年、オランダのアムステルダムで開催され、今年は124カ国、地域から5247人の写真家が応募し、10万1254点から選ばれた、計57人の写真家の作品を展示した。大賞はサムエル・アラランダ氏(スペイン)がイエメンのモスクで傷ついた男性を抱きかかえる女性を写した作品だった。また今年は東日本大震災と大津波の爪痕を写した作品も多く受賞した。朝日新聞東京本社恒成利幸カメラマンが写した被災地で涙を流す女性や、毎日新聞社の手塚耕一郎氏がヘリコプターから撮影した押し寄せる津波、またAFP通信社サンパウロ支局の千葉康由氏が被災地で撮影した組写真が入賞を果たしたほか、AFP通信社のデービッド・グッテンフェルダ氏やマグナムフォトのパオロ・ペレグリン氏も被災地を独自の視点で切り取り評価されました。フランスのドゥニール・ルブル氏は生存者である一人の女性をポートレート作品に結実させた。本展覧会は世界45カ国、地域、約100会場で開催され、約200万人の来場者を集めた。



鋤田正義展
SOUND&VISION
 SUKITA MASAYOSHI RETROSPECTIVE
 SOUND & VISION

期 間 平成24年8月11日(土)～9月30日(日) 44日間
主 催 鋤田正義展実行委員会
共 催 東京都写真美術館、朝日新聞社
プロデュース 立川直樹
協 賛 フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社/株式会社金鳳堂/キリンビール株式会社/東京リスマチック株式会社/金沢工業大学

デヴィッド・ボウイ、T.REXのマーク・ボラン、YMO、布袋寅泰をはじめとする国内外のミュージシャンから圧倒的な支持を受け、広告写真、テレビコマーシャル、映像作品など幅広いフィールドにおいて常に第一線で活躍し続ける写真家、鋤田正義(1938～)。デヴィッド・ボウイが冷戦下のベルリンで録音した名盤『LOW』に収録された「SOUND & VISION」を冠した本展は、1970年代から現在までボウイと深い信頼で結ばれてきた鋤田正義の全仕事を、300点以上の作品から俯瞰する回顧展となった。



第23回日本写真作家協会会員展
第10回日本写真作家協会公募展
 The 23th JPA Exhibition 2012

期 間 平成24年10月6日(土)～10月21日(日) 14日間
主 催 一般社団法人日本写真作家協会
共 催 東京都写真美術館

日本写真作家協会の会員が出品する作品と、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。

本年度は、会員による作品約217点に、全国からの応募作品2,042点の中から入賞・入選した195点を加え、全412点を展示し、大阪・広島にも巡回した。



写真新世紀東京展2012
 New Cosmos of Photography
 Tokyo Exhibition 2012

期 間 平成24年10月27日(土)～11月18日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数1,325人のなかから選ばれた優秀受賞者5名、佳作受賞者20名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた赤鹿麻耶氏による新作作品展を開催した。関連イベントとして11月9日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員:大森 克己(写真家)、佐内 正史(写真家)、榎木 野衣(美術批評家)、清水 穂(写真評論家)、HIROMIX(写真家)(敬称略))を開催した。



第13回上野彦馬賞受賞作品展
九州産業大学フォトコンテスト
UENO HIKOMA AWARD Exhibition

期 間 平成24年11月24日(土)～12月2日(日) 8日間
主 催 九州産業大学/毎日新聞社

わが国の<写真の祖>とも言われる上野彦馬の名を冠したこのコンテストは、明日の写真界へのデビューを夢見る若い写真家の発掘と育成を目的として創設された。プロ・アマを問わず、39歳以下の一般部門と高校生・中学生部門を併設しているのが特徴。第13回目となる今回は、一般部門773点、高校生・中学生部門2,611点、総計3,384点の作品が国内外から集まり、大賞をはじめとする入選作品104点を展示。また、企画展として古写真展「オランダ人医学教師マンスフェルトが見た明治初期の日本」より50点を展示した。

APAアワード2013
第41回公益社団法人日本広告写真家協会公募展
APA Award 2013

期 間 平成25年3月2日(土)～3月17日(日) 14日間
主 催 公益社団法人日本広告写真家協会/
第4回「全国学校図工・美術写真公募展」実行委員会
共 催 東京都写真美術館/
後 援 全国造形教育連盟
経済産業省/文化庁/東京都
文部科学省/東京都教育委員会/
財団法人 美育文化協会/
財団法人 教育美術振興会/
協 賛 公益社団法人日本写真協会
一般社団法人日本写真文化協会/
エプソン販売株式会社/オリンパスイメージング株式会社/
キヤノンマーケティングジャパン株式会社/株式会社玄光社/
ソニー株式会社/
株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/
株式会社ビクトリコ/
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社/
株式会社フレームマン/
株式会社堀内カラー/
ライカカメラジャパン株式会社/
協 力 法人賛助会員各社

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2013」の入選作品を一堂に展示した。
広告作品部門は平成23年1月1日から平成24年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では「光(きぼう)」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品57点を選出し展示した。
また、昨年から引き続き特設展示として「第4回全国学校図工・美術写真公募展」で全国の小・中学生から応募された写真を展示した。



マリオ・ジャコメリ写真展 THE BLACK IS WAITING FOR THE WHITE

期 間 平成25年3月23日（土）～5月
12日（日）
8日間（平成25年3月31日まで
の開館日数）

主 催 青幻舎/NADiff/PARCO
共 催 東京都写真美術館
後 援 イタリア大使館/
イタリア文化会館

アドリア海に面したイタリア・マルケ州に生まれ、その詩的で深奥な作風で何世代もの写真家たちに影響を与えたマリオ・ジャコメリ（1925-2000）。日本では、2008年に東京都写真美術館において初めて本格的に紹介され、「黒」と「白」とを見事に操り、強烈なハイ・コントラストで「死」と「生」に立ち向かい、孤高の写真表現で現実を抽象した作品群は、多くの人々の心をとらえた。2回目となる本展では、老人たちの動作を記録した「ホスピス」、農夫たちの暮らしに自己の回帰を求めた「スカンノ」のほか、「神学生たち」、「大地」などの代表作を中心に218点で構成。作品相互の関係が響きあうことにより、ジャコメリ理解の深化をはかり、いまま写真表現の未来を指し示しているジャコメリの本質を明らかにする展覧会となった。





教育普及事業 スクールプログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校・中学校・高等学校、大学および各種学校の授業とリンクした「スクールプログラム」を実施している。利用を希望する学校を対象に、展覧会の作品解説、暗室での写真プリントや教材キットを活用した実技的な体験プログラムを行った。大学の博物館学等で来館した学校団

体には、当館の展覧会業務や美術館活動についての概要説明、バックヤード見学等を実施した。

実施回数： 47回（教員研修等をふくむ）

参加者数： 1,238人

平成24年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	学年	授業区分	人数	プログラム
1	4月27日	金 10:30-11:30	日大芸術学部写真学科	大学生	授業等	10	フェリーチェ・ベアトの東洋展解説
2	4月29日	日 13:00-14:00	実践女子大学	大学生	授業等	60	フェリーチェ・ベアトの東洋展解説
3	4月30日	月祝 10:30-13:00 14:00-16:30	東京写真学園	専門学校生	授業等	100	フェリーチェ・ベアトの東洋展解説
4	5月16日	水 10:00-12:00	仙台市立加茂中学校	3年生	修学旅行	4	職場体験
5	6月 1日	金 13:00-15:00	日本大学 芸術学部		博物館課程	19	概要説明 展覧会鑑賞
6	6月 1日	金 19:00-20:00	早稲田大学 文化構想学部	3-4年	授業等	29	川内倫子展レクチャー
7	6月19日	火 13:30-15:30	日本大学 芸術学部		博物館課程	24	概要説明 展覧会鑑賞
8	6月19日	火 15:00-16:30	練馬区図工研究会	図工教員	教員研修	20	川内倫子展レクチャー SP紹介
9	6月20日	水 10:00-12:00	文京区根津小学校	5年生	図工	34	フォトグラム、展覧会
10	6月22日	金 14:50-16:30	東京女学館小学校	4-5年	絵画クラブ	4	驚き盤、展覧会
11	6月29日	金 10:00-14:00	港区御田小学校	4年生	図工	58	フォトグラム、展覧会
12	7月13日	金 10:00-12:00	渋谷区立広尾小学校	6年生	図工	23	フォトグラム、展覧会
13	7月18日	水 16:00-17:00	日本写真芸術専門学校	専門学校生	授業等	44	自然の鉛筆 技法と表現展
14	7月24日	火 10:00-12:00	創価中学校	美術部	部活	11	モノクロプリント、展覧会
15	7月24日	火 13:30-17:30	動くフォーラム（財団連携）	小中高教員	教員研修	16	驚き盤、フォトグラム、概要説明
16	7月25日	水 10:00-12:00	国分寺市立国分寺第四中学校	1-3年	部活	27	フォトグラム、展覧会
17	7月25日	水 13:00-15:00	キッズベースキャンプ	低学年	サマースクール	14	フォトグラム
18	7月26日	木 13:00-15:00	キッズベースキャンプ	低学年	サマースクール	16	フォトグラム
19	7月31日	火 10:00-12:00	足立区立第12中学校	美術部	部活	21	フォトグラム
20	7月31日	火 13:00-15:00	杉並区高円寺中学校	美術部	部活	12	フォトグラム
21	8月22日	水 10:00-15:00	京都造形芸術大学	大学生	見学旅行	20	BWプリント
22	8月22日	水 14:00-16:00	東京総合写真専門学校	専門学校生	授業等	21	田村彰英 夢の光展鑑賞、アーティスト・トーク
23	9月 5日	水 10:00-12:30	宮城学院女子大学	大学生	博物館学	9	バックヤード見学、フォトグラム
24	9月15日	土 14:00-16:00	武蔵野美術大学	大学生	授業等	21	田村彰英 夢の光展鑑賞
25	9月25日	火 15:00-17:00	科学技術学園高校	写真部	部活	8	カメラの仕組みを学ぼう
26	10月10日	水 10:00-12:00	公文国際学園中等・高等部	中高生	授業等	24	カメラの仕組みを学ぼう
27	10月16日	火 10:00-12:00	東京都立永福学園	小学生	授業等	8	おどろき盤、展覧会鑑賞
28	10月20日	土 10:00-12:00	京都造形芸術大学通信教育部	学生	授業等	11	概要説明、バックヤード見学
29	10月24日	水 13:30-17:00	練馬区図工研究会 発表会	図工教員	教員研修	44	フォトグラムのプレゼン（出張）
30	10月27日	土 10:00-12:00	京都造形芸術大学通信教育部（写真学科）	学生	授業等	31	機械の眼 カメラとレンズ展解説
31	11月 9日	金 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	61	フォトグラム
32	11月16日	金 10:00-12:00	日本大学通信教育部	大学生	博物館学	11	概要説明、保存について
33	11月17日	土 10:30-13:00	首都大学東京	大学生	博物館実習	19	概要説明
34	11月24日	土 10:30-12:30	東京工芸大学	大学生	授業等	25	操上和美 時のポートレイト展
35	11月27日	火 14:00-16:00	British School in Tokyo	中学生	授業等	7	フォトグラム
36	11月28日	水 12:30-14:30	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図工	109	驚き盤 展覧会鑑賞
37	11月30日	金 14:00-16:00	British School in Tokyo	中学生	授業等	8	BWプリント
38	12月 4日	火 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	72	驚き盤
39	12月 7日	金 13:00-15:00	杉並区中瀬中学校	発達障害学級	授業等	19	フォトグラム
40	12月 8日	土 10:00-11:30	女子学院中学校・高等学校	写真部	部活	15	日本の新進作家vol.11展解説
41	12月11日	火 10:00-12:00	渋谷区立神宮前小学校	5年生	図工	28	フォトグラム
42	12月15日	土 10:30-12:00	千葉県立東葛飾高校	高校生	授業等	18	概要説明 映像をめぐる冒険vol.5「記録は可能か」展解説
43	12月18日	火 10:00-12:00	筑波大付属駒場中学校	中学生	授業等	9	フォトグラム
44	1月18日	金 AM/PM	目黒区立第八中学校	1年生	職場訪問	6	鑑賞+職場体験
45	1月24日	木 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	58	コマ撮りアニメーション
46	1月25日	金 10:00-12:00	品川区清水台小学校	6年生	図工	18	コマ撮りアニメーション
47	3月12日	火 10:00-12:00	トキワ松学園中学・高等学校	写真部	部活	12	モノクロ銀塩プリント

普及事業
ワークショップ等

東京都写真美術館は、写真と映像の二つの専門分野を総合的にあつかう美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

ワークショップ

来館者が写真映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することを目的に、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを実施した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
鶏卵紙ワークショップ	当館スタッフ	平成24年4月1日(日) 平成24年4月7日(土)	42人	一般 3,000円 学生 2,000円
鶏卵紙ワークショップ デモンストレーション 友の会限定 ペアト散歩	当館スタッフ 当館スタッフ	平成24年4月8日(日) 平成24年4月21日(土)	14人 20人	無料
ワタリドリ計画 写真着彩ワークショップ	ワタリドリ計画(麻生知子・武内明子)	平成24年6月9日(土) 平成24年6月10日(日)	46人	一般 2,000円 学生・友の会 1,500円
BWプリントワークショップ	当館スタッフ	平成24年6月23日(土) 平成24年6月24日(日) 平成24年7月7日(土)	35人	一般 3,000円 学生 2,000円
「自然の鉛筆 表現と技法」展 プレイベント デジタル画像からのプラチナ・プリント・ワークショップ	西丸 雅之	平成24年7月8日(日)	30人	一般 5,000円 学生 3,500円
第5回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ	Q. サカマキ (写真家、WPP07受賞者、NY在住) 外山俊樹 (『アエラ』フォトディレクター)	平成24年7月14日(土)～ 7月16日(月・祝)	17人	20,000円
第5回 写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ 公開レヴュー 夏休みワークショップ 「手作りアニメーション体験」	Q. サカマキ (写真家、WPP07受賞者、NY在住) 当館スタッフ	平成24年7月16日(月・祝) 平成24年7月28日(土)	65人 36人	無料 (世界報道写真展の半券提示) 1,000円
デジタル画像からの鶏卵紙プリント・ワークショップ	当館スタッフ	平成24年8月18日(土) 平成24年8月19日(日)	34人	一般 5,000円 学生 3,500円
夏休み映像ワークショップ 「平行カメラで世界を写そう!」	鳴川 肇 (構造家・建築家)	平成24年8月25日(土) 平成24年8月26日(日)	36人	1,000円
大人のための暗室体験/フォトグラム・ワークショップ	当館スタッフ	平成24年9月1日(土) 平成24年9月2日(日)	51人	一般 4,000円 学生・友の会 3,000円
BWプリントワークショップ	当館スタッフ	平成24年9月16日(日) 平成24年9月17日(月・祝)	28人	一般 4,000円 学生 3,000円
ワークショップ「カメラを分解してみたら、 何が見えてくるかな?」 友の会限定 モノクロ銀塩プリントワーク ショップ (ハイブリッド方式) 協力: キヤノン株式会社	井口 芳夫 (日本カメラ博物館学芸員) 当館スタッフ	平成24年10月7日(日) 平成24年10月8日(月・祝) 平成24年12月1日(土)	22人	一般 5,000円 学生 3,000円
映像体験イベント: クロマキーランド 協力: キヤノン株式会社	当館スタッフ	平成25年1月25日(金) 平成25年1月26日(土)	43人	1組 500円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (銀塩ネガフィルム方式)	当館スタッフ	平成25年3月16日(土)	19人	一般 4,000円 学生 3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (ハイブリッド方式) 協力: キヤノン株式会社	当館スタッフ	平成25年3月17日(日)	21人	一般 5,000円 学生 4,000円
映像体験イベント: クロマキーランド 協力: キヤノン株式会社	当館スタッフ	平成25年3月22日(金) 平成25年3月23日(土)	22人	1組 500円
合計			617人	

共催ワークショップ

写真関連団体、企業等と連携して様々なワークショップを実施した。

テーマ	講師等	開催日	参加人数	参加費
親子とはじめての方のための 「モノクロ写真体験教室」 共催: 日本写真協会	公益社団法人日本写真協会・日本プリン ター協会 各会員	平成24年6月30日(土) 平成24年7月1日(日)	52人 52人	1,000円
小中学生対象の「一日報道カメラマン」	朝日新聞文化事業部	平成24年8月2日(木)	10人	1,500円
盆栽アニメーション 共催: さいたま市大宮盆栽美術館	当館スタッフ	平成25年3月20日(水・祝)	31人	無料
合計			145人	

講演会等

写真美術館で開催した展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界	シンポジウム「堀野正雄の現代的意義」	平成24年4月21日(土)	谷口英理(国立新美術館情報資料室 アソシエイトフェロー)、 戸田昌子(武蔵野美術大学非常勤講師)、有馬学(福岡市博物館 館長)、金子隆一(東京都写真美術館専門調査員)	68人	
田村彰英 夢の光	連続対談「[カメラ毎日]とコンボラの時代」	平成24年8月4日(土)	前田利昭(『日本カメラ』編集長)、上野 修(写真評論家)、田村彰英(出品作家)	113人	
	連続対談「売れる写真、新しい写真表現」	平成24年8月11日(土)	町口 寛(アートディレクター)、町口 景(アートディレクター)、 田村彰英(出品作家)	117人	
	連続対談「写真を読む、写真を楽しむ」	平成24年8月25日(土)	三浦しをん(作家)、田村彰英(出品作家)	159人	
	トーク&ライブ「ライカとクラシックカメラの調べ」	平成24年9月7日(金)	永田 徹(ISO/TC42〈写真〉国際エキスパート)、板井公規(ギタリスト)、田村彰英(出品作家)	67人	
北井一夫 いつか見た風景	作家とゲストによる対談	平成24年12月15日(土)	北井一夫(出品作家)、金子隆一(東京都写真美術館専門調査員)	81人	
		平成25年1月12日(土)	田中長徳(写真家)、北井一夫(出品作家)	93人	
		平成24年12月11日(火)	二ナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ(出品作家)	51人	
映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。	連続トークイベント	平成24年12月22日(土)	ゼロ次元・加藤好弘(美術家)、黒ダイヤ児(戦後日本前衛美術史研究者)	65人	
		平成25年1月19日(土)	宮井陸郎(出品作家)、平沢剛(映画研究者)	75人	
フェリーチェ・ベアトの東洋	講演会 「幕末のタイムカプセル：フェリーチェ・ベアトの日本」	平成24年4月15日(日)	高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)	103人	
川内倫子 照度 あめつち 影を見る	対談	平成24年5月25日(金)	内藤礼(現代美術作家)、川内倫子(出品作家)	269人	
		平成24年6月22日(金)	原田郁子(音楽家)、川内倫子(出品作家)	286人	
操上和美 時のポートレイト	対談	平成24年10月14日(日)	椎名誠(作家)、操上和美(出品作家)	204人	
		上映関連ゲストトーク	平成24年11月22日(木)	宮本敬文(映画監督)、操上和美(出品作家)	143人
日本の新進作家vol.11 この世界と私のどこか	作家とゲストによる対談	平成24年12月2日(日)	若木信吾(写真家)、宮本敬文(映画監督)、操上和美(出品作家)	193人	
		平成24年12月8日(土)	大塚千野(出品作家)、笠原美智子(当館学芸員)	52人	
		平成24年12月9日(日)	菊地智子(出品作家)、竹内万里子(写真批評家)	73人	
		平成25年1月12日(土)	笹岡啓子(出品作家)、豊島重之(精神科医・モレキュラーシアター芸術監督)、高橋しげみ(青森県立美術館学芸員)	82人	
		平成25年1月13日(日)	蔵真墨(出品作家)、丹野章(写真家)	104人	
アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密	レクチャー	平成25年1月20日(日)	田口和奈(出品作家)、岩永忠すけ(画家)	85人	
		平成25年1月11日(金)	飯沢耕太郎、楠本亜紀、沢山遼、清水稼、土屋誠一、長谷川明、 笠原美智子、遠藤水城	98人	
第5回恵比寿映像祭 「パブリック≠ダイアリー」	上映関連ゲストトーク	平成25年3月5日(火)	ナディヤ・ブルーメンフェルド・シャルビ(展覧会協力者・作家遺族)	85人	
		ラウンジトーク	平成25年2月8日(金)	宮永亮(出品作家)	30人
			ザ・プロペラ・グループ(出品作家)	28人	
			平成25年2月9日(土)	ヒト・スタヤル(出品作家)	32人
			ベン・リヴァース(出品作家)	75人	
			野口靖(出品作家)	37人	
			野口久美子、平川紀道、森浩一郎(出品作家)	76人	
			平成25年2月21日(木)	住吉智恵(アートプロデューサー)、山口崇司(映像作家)	46人
			川口隆夫(出品作家)	64人	
			平成25年2月22日(金)	金子隆一(当館専門調査員)	40人
			鈴木康広(出品作家)	64人	
			平成25年2月23日(土)	グエン・チン・ティ(出品作家)	51人
			平成25年2月8日(金)	シェイラ・カメリッチ(出品作家)	51人
			平成25年2月9日(土)	ヒト・スタヤル(出品作家)	33人
ベン・リヴァース(出品作家)	122人				
平成25年2月10日(日)	ジェイ・サンダース(ホイットニー美術館キュレーター)	128人			
平成25年2月11日(月・祝)	福岡星良(出品作家)	52人			
大江崇允(出品作家)	23人				
平成25年2月16日(土)	ニール・エヴロン(出品作家)、ドール・ゲズ(出品作家)、 マーヤン・シェレフ(ゲストプログラマー)	81人			
土居伸彰(ゲストプログラマー)、水江未来(出品作家)	61人				
平成25年2月19日(火)	ニール・エヴロン(出品作家)、ドール・ゲズ(出品作家)、 マーヤン・シェレフ(ゲストプログラマー)	61人			
平成25年2月20日(水)	告畑綾(出品作家)	39人			
平成25年2月21日(木)	大江崇允(出品作家)	37人			
平成25年2月23日(土)	小森はるか(出品作家)	61人			
グエン・チン・ティ(出品作家)	43人				
平成25年2月24日(日)	エリザベス・サスマン(ホイットニー美術館キュレーター)	101人			
シンポジウム「フェスティバルとパブリック」	平成25年2月11日(月・祝)	ジェイ・サンダース(ホイットニー美術館キュレーター)、 ハイズ(元O.K.ビデオフェスティバル・ディレクター)、 岡村恵子(担当学芸員)、田坂博子(担当学芸員)	30人		
シンポジウム「パブリック≠ダイアリーをめぐって」	平成25年2月11日(月・祝)	クリストファー・ペイカー(出品作家)、シェイラ・カメリッチ(出品作家)、 鈴木康広(出品作家)、岡村恵子(担当学芸員)	35人		
レクチャー「パブリック≠ダイアリー：イスラエル」	平成25年2月16日(土)	ニール・エヴロン(出品作家)、ドール・ゲズ(出品作家)、 マーヤン・シェレフ(ゲストプログラマー)	33人		
レクチャー「CALFとインディペンデント・アニメーションの現在」	平成25年2月22日(金)	土居伸彰(ゲストプログラマー)、水江未来(出品作家)、大山慶(映像作家)	52人		
ライブ・イベント「石田尚志 恵比寿にて〜幕間」	平成25年2月17日(日)	石田尚志(画家・映像作家)	146人		
合 計				4,398人	

【誘致展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第37回日本写真家協会展	記念講演会 「生涯現役～女性報道写真家第一号・笹本恒子97歳」	平成24年5月19日（土）	笹本恒子（写真家）、板見浩史（フォトエディター）	180人
	講習会 「ワンランク上のインクジェットプリントを作る」	平成24年5月20日（日）	鹿野宏（株式会社Lab代表取締役、写真家）	15人
	レクチャー「気軽に何でも写真相談室」	平成24年5月23日（水）	浅岡恵、石井真弓、山口規子（JPS会員、写真家）	15人
	セミナー「みんなで作ろうフォトブック」	平成24年5月27日（日）	講師：JPS会員、写真家	18人
	撮影会 「身近な人を撮る～話題のミラーレス一眼の実力を体験」	平成24年6月2日（土）	熊切圭介、菅洋志、藤井智弘（JPS会員、写真家）	18人
世界報道写真展2012	講演会「日本人受賞者3人によるトーク」	平成24年6月17日（日）	恒成利幸（朝日新聞社）、手塚耕一郎（毎日新聞社）、千葉康由（AFP通信社）	190人
鎌田正義展	トークイベント「THE SHOOT MUST GO ON」	平成24年9月15日（土）	鎌田正義（出品作家）、立川直樹（プロデューサー）	85人
写真新世紀東京展2012	グランプリ選出公開審査会	平成24年11月9日（金）	大森勝己（写真家）、佐内正史（写真家）、榎木野衣（美術批評家）、清水稔（写真評論家）、ヒロミックス（写真家）	194人
マリオ・ジャコメッリ写真展	トークショー	平成25年3月30日（土）	細江英公（写真家）、鈴木芳雄（デザイナー）	65人
	トークショー	平成25年3月31日（日）	町口 覚（アートディレクター）、鈴木芳雄（デザイナー）	35人
合 計				815人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会	開催日	講師等	参加人数
幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界	平成24年4月10日（火）・13日（金）・14日（土）・27日（金）	金子隆一（担当専門調査員）	95人
光の造形 操作された写真	平成24年5月23日（水）・25日（金）・26日（土）・6月8日（金）・22日（金）	藤村里美（担当学芸員）	122人
自然の鉛筆 表現と技法	平成24年7月27日（金）・28日（土）・31日（火）・8月10日・24日（金）・9月14日（金）	鈴木佳子（担当学芸員）	218人
機械の眼 カメラとレンズ	平成24年9月28日（金）・10月12日（金）・23日（火）・26日（金）・27日（土）・11月9日（金）	金子隆一（担当専門調査員）	165人
田村彰英 夢の光	平成24年7月27日（金）・8月10日（金）・21日（火）・24日（金）・9月8日（土）・14日（金）	關次和子（担当学芸員）、田村彰英（出品作家）	183人
北井一夫 いつか見た風景	平成24年11月28日（水）・12月14日（金）・16日（日）・28日（金）・平成25年1月3日（木）・11日（金）・25日（金）	藤村里美（担当学芸員）、北井一夫（出品作家）	263人
映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。	平成24年12月12日（水）・14日（金）・15日（土）・28日（金）・平成25年1月2日（水）・3日（木）・11日（金）・25日（金）	田坂博子（担当学芸員）	276人
夜明けまえ 日本写真開拓史 北海道・東北編	平成25年3月5日（火）・10日（日）・15日（金）	三井圭司（担当学芸員）	88人
フェリーチェ・ベアトの東洋	平成24年4月6日（金）・17日（火）・20日（金）・28日（土）・29日（日・祝）・30日（月・休）・5月1日（火）・2日（水）・3日（木・祝）・4日（金・祝）・5日（土）・6日（日）	三井圭司（担当学芸員）	950人
川内倫子展 照度 あめつち 影を見る	平成24年5月18日（金）・6月1日（金）・13日（水）・15日（金）・7月6日（金・祝）	石田哲朗（担当学芸員）	246人
操上和美 時のポートレイト	平成24年10月12日（金）・26日（金）・30日（火）・11月9日（金）・23日（金・祝）	丹羽晴美（担当学芸員）	205人
日本の新進作家vol.11 この世界と私のどこか	平成24年12月21日（金）・平成25年1月4日（金）・9日（水）・18日（金）	笠原美智子（担当学芸員）、菊地智子、笹岡啓子、蔵真墨（出品作家）	149人
アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密	平成25年3月8日（金）・22日（金）・27日（水）	丹羽晴美（担当学芸員）	82人
合 計			3,042人

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
第37回日本写真家協会展	平成24年5月26日（土）・27日（日）・31日（木）・6月1日（金）・2日（土）・3日（日）	写真家（日本写真家協会会員）	171人
写真新世紀東京展2012 作品公開レビュー、アーティスト・トーク	平成24年10月27日（土）、11月3日（土・祝）	2011年度・2012年度 受賞者他	70人
マリオ・ジャコメッリ写真展	平成25年3月23日（土）	アレクサンドラ・マウロ（キュレーター）、伊勢功治（デザイナー）	85人
合 計			326人

教育普及事業

あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿（文化施設連携事業）

1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業が展開されている。

本事業の趣旨は、これらの文化施設が連携することにより、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図ろうとするものである。これにより人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを目的とする。

2 連携施設

①NHKスタジオパーク ②渋谷公会堂 ③たばこと塩の博物館④トーキョーワンダーサイト渋谷 ⑤Bunkamura ⑥観世能楽堂 ⑦戸栗美術館 ⑧ギャラリーTOM ⑨渋谷区立松濤美術館 ⑩太田記念美術館 ⑪こどもの城 ⑫国連大学 ⑬セルリアンタワー能楽堂 ⑭白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 ⑮渋谷区ふれあい植物センター ⑯エビスビル記念館 ⑰東京都写真美術館 ⑱東京都立中央図書館 ⑲山種美術館 ⑳JICA地球ひろば ㉑環境パートナーシップ会議



かるチャー散歩地図

3 活動実績

(1) 「あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿」運営協議会の開催

参加施設の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。(実施回数7回)

(2) 広報宣伝

「あ・ら・かるチャー」ホームページ

参加館のホームページ上にバナーを設置、参加館の紹介をした。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

(3) 連携事業・イベント

(ア) 文化施設体験ツアーの実施

広報媒体・出版社等の方に参加を募り、各施設の紹

介と年末年始の活動計画を説明するとともに、連携施設の見学を実施した。参加者は、1社1名。

開催日：平成24年9月20日（木）

会場：こどもの城 1001号会議室

巡回施設：こどもの城 国連大学 地球環境パートナーシッププラザ NHKスタジオパーク

(イ) こどもの城の秋祭りに参加

昨年同様、こどもの城で開催される秋祭りイベントにゲームの夜店を出し、親子で参加してもらい、案内チラシを配布した。876人の参加を得た。

開催日：平成24年9月22日（土・祝）・23日（日）

場所：こどもの城

(ウ) 第35回渋谷区くみの広場ふるさと渋谷フェスティバルに参加

「あ・ら・かるチャー」のテントを出して渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をアピール。各施設の案内チラシの配布をはじめ、「あ・ら・かるチャークイズ」や福引き抽選会を実施した。2日間で延べ1,947人の参加を得た。

第35回渋谷区くみの広場ふるさと渋谷フェスティバル

開催日：平成24年11月3日（土・祝）・4日（日）

場所：代々木公園（渋谷区）



渋谷区民フェスでのテント風景



渋谷区民フェスでのテント風景

4 入退会

(1) JICA地球ひろばの脱会

市ヶ谷移転にともない、JICA地球ひろばは脱会することが決まった。

(2) 国立オリンピック記念青少年総合センターの入会

国立オリンピック記念青少年総合センターからの申し出を受けて、次年度より入会することが決まった。

教育普及事業

ボランティア／博物館実習

東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によってワークショップ、スクールプログラムといった来館者向けの体験プログラムの充実した活動を実施した。平成24年度は普及事業の拡大にともない、登録者数、活動回数、参加者とも前年より大きな伸びを見せた。

1 登録者数：72名

平成23年度からの更新登録者 52名

新規登録者 20名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 66回 1ヶ月平均 約5.5回

のべ参加者 308人

(ただしボランティア研修会を除く。)年間一人あたり4.6回

(1) ワークショップ・スタッフ活動 29回

(2) スクールプログラム・スタッフ活動 25回

(3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 12回

●ボランティア研修会（ワークショップ／スクールプログラム実技研修）8回

平成24年5月27日（日）、7月10日（火）、8月17日（金）、8月23日（木）、8月31日（金）、9月30日（日）、平成25年1月13日（日）、3月9日（土）

●新規ボランティア研修会・ボランティア交流会 2回

平成24年5月26日（土）、9月30日（日）

●ボランティア年次会 平成24年4月8日（日） 1回

博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成24年度は展覧会業務、作品管理業務、教育普及業務の3つの実習グループに分かれて、10～12日間の実習を行った。

1. 受入日程：平成24年8月16日（木）～9月7日（金）のうち10～12日間

2. 受入人数：12名

3. 受入大学：京都造形芸術大学、共立女子大学、多摩美術大学、帝京大学、東京大学、東京工芸大学、東北芸術工科大学、日本大学芸術学部、明星大学、目白大学、立正大学

作品資料収集／作品収集実績

●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した重点作家（17人）

秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。

- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在のおおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 畠山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成24年度収集点数：1,536点

東京都写真美術館コレクション点数：29,613点

【内訳】国内写真作品：372点 海外写真作品：34点

【内訳】国内写真作品：18,812点 海外写真作品：5,480点

映像作品資料：19点 写真資料：1,111点

映像作品資料：2,318点 写真資料：3,003点

●作品収集実績

東京都購入案件

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年	備考
大塚 千野	<Imagine Finding Me>より	発色現像方式印画	180x120	12	2005-2009	H24「新進作家」展出品作品、ed.1/5 最終セット
川内 倫子	Illuminance, Iridescence, ある箱のなか	発色現像方式印画	1016x1016 他	37	2007-2012	H24「川内倫子」展出品作品
北井 一夫	<三里塚>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	258x380	10	1969-1971	H24「北井一夫」展出品作品、新規重点収集作家
蔵 真墨	<蔵のお伊勢参り>より	発色現像方式印画	457x457	20	2003-2011	H24「新進作家」展出品作品
操上 和美	<NOTHERN>、<颯と骨>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)、 他	508x610、 他	8	1973-2000	H24「操上和美」展出品作品
笹岡 啓子	<Fishing>より	発色現像方式印画	1000x1333	4	2011	H24「新進作家」展出品作品、ed.1/3
須田 一政	<東京景>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	310x253	20	1975-1978	H25「須田一政」展出品予定作品、新規重点収集作家、 購入時寄贈14点、「ゲインジ」
田口 和奈	<あなたを待っている細長い私>より (3) - (5)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	930x810	3	2007	H24「新進作家」展出品作品、ed.1/2
田村 彰英	<道>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	607x506	6	1976-1979	H24「田村彰英」展出品作品、新規重点収集作家
田村 彰英	<湾岸>、<赤鷲>より	発色現像方式印画、他	506x607	22	1983-1997	H24「田村彰英」展出品作品、新規重点収集作家
米田 知子	<積雲>より	発色現像方式印画	650x830	10	2003-2011	H25「米田知子」展出品予定作品
BLUMENFELD, Erwin	nude under wet silk (vintage), ポートフォリオ「Viva America」	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)、 他	600x500、 他	6	1937	H24「ブルーメンフェルト」展出品作品
BOLTANSKI, Christian	Gymnasium Chases	フォトグラフィア印刷	590x420	24	1991	H25収蔵展出品予定作品、24点組
エキソニモ	祈、断末魔ウス	その他のフィルム		2	2007-2009	第4回恵比寿映像祭出品作家、インスタレーション、DVD
小阪 淳	VIT 2.0	その他のフィルム		1	2011	H23映像展出品作品、ed.1/5, installation
田村 友一郎	NIGHTLESS ver.6	その他のフィルム		1	2011	第3回恵比寿映像祭出品作品、シングルチャンネル・ビデオ 21分56秒、HD、カラー、サウンド
ダブルネガティブス アーキテクチャー	Super Eye to see the world, Corporate Eye::flock	その他のフィルム		2	2009-2011	H23映像展出品作品、ed.1/8, installation
鳴川 肇	オーサグラフ・クロノマップ 4700 世界史	その他のフィルム		1	2011	H23映像展出品作品、ed.1/5 installation
宮井 陸郎	時代精神の現象学	その他のフィルム		1	1967	16mm フィルム、H24映像展出品作品
合 計				190		

東京都写真美術館購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ	点数	制作年	備考
上野 彦馬	長崎市郷之撮影	鶏卵紙	232x290	9	1870	1873年のウィーン万博に出品されたアルバム 「長崎市郷之撮影」所収4点、同様式台紙未収録5点
木村 専一	<フォトアウゲ>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	392x310	7	1930-1931	
森山 大道	月刊「記録」	写真網目版印刷		5	1972-1973	森山大道刊、1～5号
合 計				21		

※東京都写真美術館購入案件21点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

寄贈

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年from	備考
大塚 千野	Photo Album	インクジェット・プリント	406x508	2	2012	購入時寄贈 H24「日本の新進作家 vol.11」 展出品作品、ed.1/5
川内 倫子	あめつち	発色現像方式印画	1480x1850	2	2012	購入時寄贈 H24年度「川内倫子」展出品作品
菊地 智子	<l and l>より	インクジェット・プリント	508x609	23	2006-2011	H24「新進作家」展出品作品
北井 一夫	<神戸港湾労働者>、<いつか見た風景>、 <村へ>、<境川の人々>、 <新世界物語>、<おてんき>、 <1990年代の北京>、<ライカで散歩>、 <道>	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	438x353	96	1965、他	購入時寄贈 H24「北井一夫」展出品作品、 新規重点収集作家
蔵 真墨	<蔵のお伊勢参り>より	発色現像方式印画	457x457	3	2009	購入時寄贈 H24「新進作家」展出品作品
操上 和美	「陽と骨Ⅱ」、<陽と骨>より	発色現像方式印画、他	1000x1500、 他	3	1970-2011	購入時寄贈 H24「操上和美」展出品作品
笹岡 啓子	<Fishing>より	発色現像方式印画	720x720	9	2001-2012	購入時寄贈 H24「新進作家」展出品作品、ed.1/5
佐野 陽一	flow	発色現像方式印画	1000x1260、 他	2	2009-2011	H23「新進作家」展出品作品
須田 一政	<東京景>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	310x253	14	1975-1978	購入時寄贈 H25「須田一政」展出品予定作品、 新規重点収集作家、ゲイテージ
添野 和幸	<酒のフォトグラム>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	239x304、 他	6	2008-2011	H23「新進作家」展出品作品、ed.1/1
田口 和奈	<あなたを待っている細長い私>より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	930x660	2	2007	購入時寄贈、H24「新進作家」展出品作品、ed.1/2
田村 彰英	<BASE 2005-2012>、<湾岸>より	発色現像方式印画	1500x2400	10	1989-2012	購入時寄贈、新規重点収集作家、 H24「田村彰英」展出品作品
都築 響一	<珍日本紀行>より「イカ明神」	発色現像方式印画	1100x600	1	1996	H23購入に伴う寄贈
芳賀 日出男	<花祭>より「山から訪れてくる機神」	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	320x480	1	1964	H23年購入に伴う寄贈
春木 麻衣子	<inner portrait>、 <view for a moment>より	発色現像方式印画	584x1394、 他	3	2011	H23「新進作家」展出品作品
森川 愛三	婚礼写真	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	194x135	1	1939-1941	寄贈者の母が新婦の家に奉公にでていた関係で像主より譲り受ける。
屋代 敏博	回転回LIVE!	発色現像方式印画	290x560	25	2007	H19「日本の新進作家 vol.6」展出品作品
作家不詳	初期写真(肖像)	アンプロタイプ	92x65	1	1890	蓋欠損、箱本体側面ハズレ
BLUMENFELD, Erwin	Ophelia, Untitled	インクジェット・プリント	400x500	2	1944-1952	購入時寄贈 H24「ブルーメンフェルド」展出品作品、 printed in 2012
Friedery Cubert & Makart	初期写真(肖像)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	144x100	2	1890	
金坂 健二	(アメリカ)、(ヨーロッパ・パリ)、 (その他・ヌード)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	195x300	1,106	1960-1970	H24映像展出品資料(一部)、H23年作品寄贈作家、 ご遺族より
エキソニモ	Joiner - Collage Camera	その他のフィルム		1	2010	購入時寄贈 第4回恵比寿映像祭出品作家
田村 友一郎	NIGHTLESS ver.1-5, 7-10	その他のフィルム		9	2009-2012	購入時寄贈 シングルチャンネル・ビデオ、HD、カラー、 サウンド、第3回恵比寿映像祭出品作品
鳴川 肇	オーサグラフ・世界地図の解説ムービー	その他のフィルム		1	2009	購入時寄贈 H23映像展出品作品、HD DV/data、 2sec.38min.
合 計					1,325	

●プリントスタディールーム

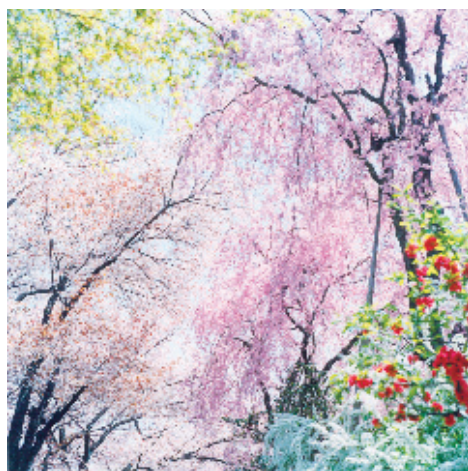
東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。（実績は70ページ）

平成24年度収蔵作品の紹介

東京都購入案件



大塚千野 〈Imagine Finding Me〉より
 〈1976 and 2005, Kamakura, Japan〉
 2005年 発色現像方式印画



川内倫子 〈イリディッセンス〉より《無題》
 2009年 発色現像方式印画



北井一夫 〈三里塚〉より《空港阻止》 1970年
 ゼラチン・シルバー・プリント



蔵 真墨 〈蔵のお伊勢参り〉より
 《神奈川県横浜市》 2004年
 発色現像方式印画



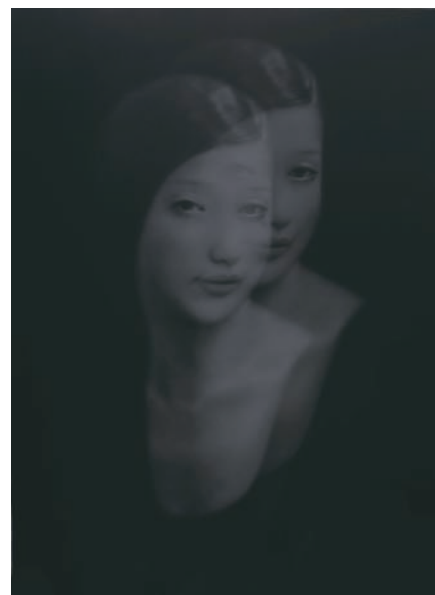
操上和美 〈NORTHERN〉より 〈ノバスコシア〉
1992年 ゼラチン・シルバー・プリント



笹岡啓子 〈Fishing〉より
《Itoman, Okinawa》 2011年 発色現像方式印画



須田一政 〈東京景〉より 1975-78年
ゼラチン・シルバー・プリント



田口和奈 〈あなたを待っている細長い私〉より
《Look how long I've grown waiting for you》
2007年 ゼラチン・シルバー・プリント



米田知子 〈積雲〉より《白い鳩・終戦記念日・靖国神社》
2011年 発色現像方式印画



田村彰英 〈道〉より《1976年12月16日》
1976年 ゼラチン・シルバー・プリント



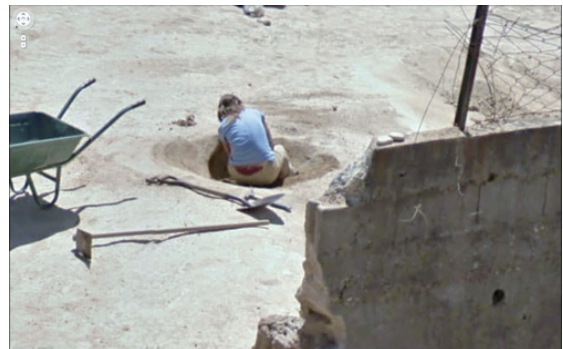
アーウィン・ブルーメンフェルド ポートフォリオ
《ピバ・アメリカ》より《『ヴォーグ』US、
1945年3月号》 1945年 インクジェット・プリント



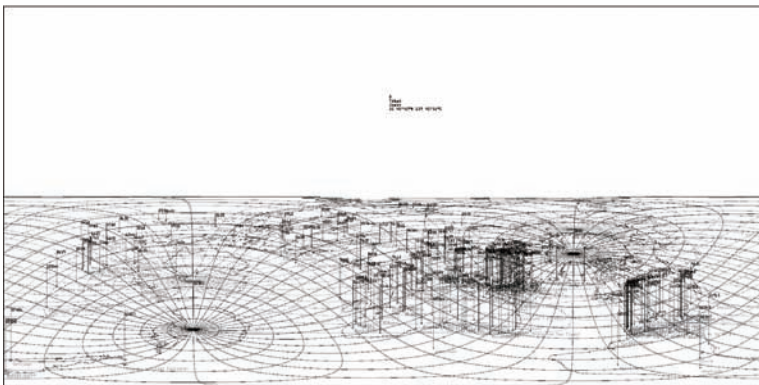
クリスチャン・ボルタンスキー
Gymnasium Chases 1991年
フォトグラビア印刷



小阪 淳 《VIT 2.0》2011年
インタラクティブインスタレーション



田村友一郎 《NIGHTLESS ver.6》2011年
シングルチャンネル・ビデオ



doubleNegatives Architecture 《Super Eye to see the world》
2011年 アプリケーション



エキソニモ 《祈》2009年 インスタレーション



鳴川 肇 《オーサグラフ・クロノマップ 4700 世界史》2011年
インタラクティブインスタレーション



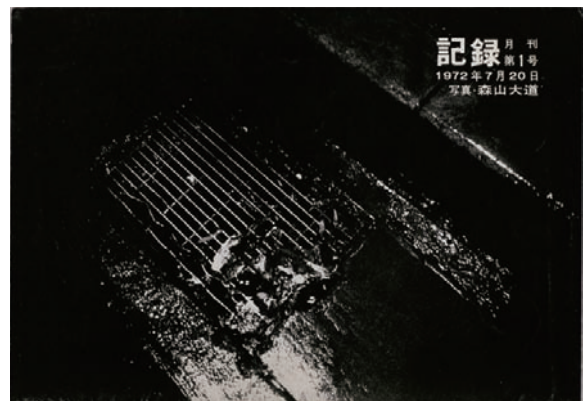
宮井陸郎《時代精神の現象学》1967年 16mmフィルム



上野彦馬 《長崎市郷之撮影》1870年頃 鶏卵紙



木村専一 〈フォトアウゲ〉より
1931年 ゼラチン・シルバー・プリント



森山大道
月刊『記録』第1号表紙 1972年 写真網目版印刷

調査研究・普及活動(個人)

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「天地の間—川内倫子論」『川内倫子展 照度 あめつち 影を見る』、青幻舎、pp.112-113

岡村恵子

「パブリック⇨ダイアリー」『日記、プライベート／パブリックの境界にある『ゆらぎ』へ（坪井秀人、樽沼範久との鼎談）』『第5回恵比寿映像祭 パブリック⇨ダイアリー』展図録、東京都写真美術館2013年、pp.8-29

笠原美智子

「この世界とわたしのどこか-日本の現代写真」『日本の新進作家 Vol.11 この世界とわたしのどこか』展図録、東京都写真美術館、pp. 9-15

金子隆一

「機械の眼—カメラとレンズ」『光と影の芸術 写真の表現と技法』（「平成24年度コレクション展」図録）、平凡社、2012年5月16日、pp.108-159

北澤ひろみ

「『時を記す』という衝動」『第5回恵比寿映像祭 パブリック⇨ダイアリー』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp. 36-40

鈴木佳子

「自然の鉛筆—技法と表現」『光と影の芸術 写真の表現と技法』、平凡社、pp. 60-61

関次和子

「田村彰英 夢の光」『田村彰英 夢の光』株式会社日本カメラ社、pp.157-159

田坂博子

「記録は可能か。」『映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。』展図録、東京都写真美術館、pp. 58-69

丹羽晴美

「ノスタルジックな存在になりかけた時間。」『操上和美 時のポートレート』展図録、東京都写真美術館、pp. 100-105

「美の秘密」『アーウィン・ブルーメンフェルド』展図録、東京都写真美術館、pp. 186-192

藤村里美

「光の造形—操作された写真」『光と影の芸術 写真の表現と技法』、平凡社、pp. 8-9

「普通の生活」『北井一夫 いつか見た風景』、冬青社、pp. 164-171

三井圭司

「北海道・東北における初期写真の一考察」『夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編 研究報告書』、東京都写真美術館、2013年、pp. 70-75

【東京都写真美術館紀要No. 13】

福原義春

「科学写真から蘭の肖像へ」 pp. 13-19

飯田直人 (インターン)

「モホイ=ナジ—理想社会像としての映画『大都会のジブシー』」 pp. 33-44

岡村恵子

「石田尚志—反復する部屋、終わらない絵画（第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示コンペティション企画案）」 pp. 21-32

亀海史明 (インターン)

「〈書くこと〉と写真—コンタクトシートにおける選択の痕跡について」 pp. 45-60

三浦陽子 (インターン)

「ミロスラフ・チヒー 消え去るイメージのゆくえ」 pp. 61-78

山田亜沙 (インターン)

「イスラエルの現代アートにおける国際的な展望」 pp. 79-87

【寄稿】

石田哲朗

「EXぎゃらりー 川内倫子展」SANKEI EXPRESS、2012年5月28日—6月2日

岡村恵子

「TOTAL SERVICE~公立美術館の学芸員として~」『平成24年度市民美術大学 美術講座（後期）講演録 学芸員の仕事とは』現代美術センターCCA北九州、2013年、pp.149-194

笠原美智子

“somewhere between me and this world - Japanese contemporary photography”, Hong Kong International Photo Festival 2012, “Parallel Visions: Japan and Korea Contemporary Photography Exhibition” catalogue, October 14 - November 4, 2012, Pao Galleries, Hong Kong Arts Centre, n.d.

“Tomoko Sawada, Skin”, “La Fotografia S’ industria, Photography Meets Industry” exhibition catalogue, GD4Art, 2012, pp.57-58

「身体の不在によって身体を表現すること-フェリックス・ゴンザレス=トレス考」『国立国際美術館開館35周年記念シンポジウム 写真の誘惑-視線の行方 記録集』国立国際美術館、2012年、pp.54-98

金子隆一

「Japanese Photography in 1960's - 1970's from the Collection of Tokyo Metropolitan Museum of Photography」

(英語、ハングル語)『第11回東江国際写真祭』カタログ、2012年、pp.12-33

「山田實と本土の写真家たち——復帰前の交流を中心に」『山田實展 人と時の往来』展カタログ、沖縄県立博物館・美術館、2012年9月、pp.217-226

「沖縄写真史の位置——来るべき東アジア写真史のために」『未来』2013年1月号、未来社、pp.27-30

「写真とは何か」根源的に問い——東松照明さんを悼む『毎日新聞』2013年1月10日(夕刊)

北澤ひろみ

「消失点に現れたもの 安村崇『1/1』展」『美術手帖』、美術出版社、2012年8月号、第64巻、通巻971号、pp. 174-175

「FANTASMA DA CASA MU [無] —ペドロ・コスタ&ルイ・シャフェス展」『美術手帖』、美術出版社、2013年3月号、第65巻、通巻980号、pp. 200-201

鈴木佳子

「ドキュメンタリー・スタイルのゆくえ——記録と表現」『neoneo』創刊号、neoneo編集室、pp.32-33

関次和子

「魅力的な写真とは」JPS展メールマガジン、No.57号、5月8日、公益社団法人日本写真家協会

田坂博子

「展覧会テキスト：3331 Gallery #16西村智己個展「アニマ」(2012年7月28日～9月16日)」

藤村里美

「新しい時代へ 女性たちの息吹」『アサヒカメラ』10月号朝日新聞出版、2012年 pp. 81

三井圭司

「片岡如松と『日光山写真』」片岡惟光編『[写真集] 片岡寫真館—明治・大正・昭和—四〇年の記憶』新樹社、2012年、pp.27-34

「史料としての写真—写真の物質性をめぐって」前掲『[写真集] 片岡寫真館』、pp.220-221

「サムライの肖像 最新の研究動向を踏まえて」小沢健志監修『レンズが撮らえた 幕末の志士たち』、山川出版社、2012年、pp.18-23

「幕末・明治のドキュメント・フォト」前掲『レンズが撮らえた 幕末の志士たち』、pp.72-83

「上野彦馬の風景写真」小沢健志・上野一郎監修『レンズが撮らえた 幕末の写真師上野彦馬の世界』、山川出版社、2012年、pp.126-137

「フェリーチェ・ベアトの生涯」小沢健志・高橋則英監修『レ

ンズが撮らえた フェリーチェ・ベアト』、山川出版社、2012年、pp.58-67

「写真史からみる港区港郷土資料館初期写真コレクション」『港区立郷土資料館蔵 幕末・明治期古写真集 —名所・旧跡、人びと—』、港区港郷土資料館、2013年

山口孝子

「2011年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第75巻3号、日本写真学会、2012年、pp.248-249

山峰潤也

「学芸員のこだわり」『都政新聞』、3月6日

「展覧会における新しい技術の利用と表現を取り巻く課題について」『日本バーチャルリアリティ学会誌』第17巻3号、pp. 28-30

【学会発表】

山口孝子

福田誠、大川美香、小谷野匡子、白岩洋子、新井英夫、山口孝子、「津波水損写真の生物被害と対策—保存環境除菌剤(JE120)の防微効果—」、第34回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、日本大学文理学部、2012年6月30日

新井英夫、白岩洋子、山口孝子、大川美香、小谷野匡子、「津波被災写真の微生物劣化対策」、第36回文化財の保存および修復に関する国際研究集会・文化財の微生物劣化とその対策：屋外・屋内環境、および被災文化財の微生物劣化とその調査・対策に関する最近のトピック、東京文化財研究所、東京国立博物館 平成館 大講堂、2012年12月6日

【講演会・シンポジウム等】

岡村恵子

「平成24年度市民美術大学美術講座(後期)学芸員の仕事とは：第5回 TOTAL SERVICE~公立美術館の学芸員として~」(現代美術センターCCA北九州) 2012年12月8日

笠原美智子

“Gender Issues in Japanese Contemporary Photography”, Central Academy of Fine Arts, Beijing, Apr. 22, 2012

“Gender Issues in Japanese Contemporary Photography”, Japan Foundation, Beijing, Apr. 23, 2012

「身体不在によって身体を表現すること-フェリックス・ゴンザレス=トレス考」国立国際美術館開館35周年記念、シンポジウム「写真の誘惑-視線の行方」セッション2「写真と身体」基調報告、国立国際美術館、大阪、2012年5月12日

“Contemporary Identity in Contemporary Japanese Photography”, a part of “Vision Culture Lecture program”, Shalini Ganendra Fine Art Sdn. Bhd, Kuala Lumpur, Malaysia, June 14, 2012

トークイベント「エイズ危機時代のアメリカにおけるクィアの表現とその可能性」TOO Much magazine, VACANT, 2012年8月4日

セミナー「その後の日本の写真」TOKYO PHOTO, 六本木ミッドタウン, 2012、2012年9月29日

Curators' Seminar, “Parallel Visions - Japan and Korea Contemporary Photography”, Hong Kong International Photo Festival 2012, Hong Kong Arts Center, Oct. 14, 2012

金子隆一

レクチャー「ベン・シャーンの写真——さまざまな位相」福島県立美術館, 2012年7月1日

講演「TOKYO:A City Perspective」Amherst College, 2012年12月7日

講演「写真フィルムの保存はなぜ必要か」、日本写真保存センター第2回セミナー, 2013年1月25日

対談「BOOKS ON JAPAN 1931-1972 日本の対外宣伝グラフィック誌」(森岡督行氏と)『週刊読書人』第2967号(2012年11月30日)、読書人

対談「ピクトリアリズムと国際写真サロン」(白山真理氏と)写真展「堀市郎・前田寅次展」(JCIIフォトサロン)関連イベント, 2012年12月16日

北澤ひろみ

MAMプロジェクト017 イ・チャンウォン展 キュレーター対談「ゼロ年代の韓国現代美術」森美術館, 2012年6月30日

関次和子

「マイクロプレゼンス～新しい昆虫の見方」小檜山賢二写真展」記念講演会, 田淵行男記念館, 長野, 2012年8月5日

田坂博子

“Introduction of Yebisu International Festival for Art and Alternative Vision and Collection of Moving images”, Hanoi DocLab, Hanoi, May. 15, 2012

「On The Boat | アーティスト/キュレーターの対話」Whenever Wherever Festival (ウエン・ウエア・フェスティバル) 2012, ラウンドテーブル, 森下スタジオ, 2012年5月26日

丹羽晴美

「記憶の中の新宿」公益財団法人新宿未来創造財団 新宿区立新宿歴史博物館, 東京, 2013年1月19日

藤村里美

講演会「日本の写真史 1960年代～70年代を中心として」東江国際写真祭ワークショップ, ヨンウォル女性ホール, 2012年7月20日

三井圭司

講演会「写真で見る江戸・東京～フェリーチェ・ベアトを中心に～」『J・ポール・ゲティ美術館展「フェリーチェ・ベアトの東洋」関連文化講演会, 東京新聞生活セミナー主催, 於新宿歴史博物館, 2012年3月24日

シンポジウム『日本』・『西洋』イメージと発信地ヨコハマ」横浜異文化表象研究会/文教大学国際学部主催, 於ヨコハマ創造都市センター, 2012年8月26日

「被災資料への取り組み ～それぞれの現場から～」ヨコハマフォトフェスティバル実行委員会/陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト実行委員会主催, 於横浜赤レンガ倉庫1号館, 2013年1月20日

山口孝子

三多摩地域資料研究会「写真資料の収集・保存と活用」[東京都写真美術館における作品管理—写真の劣化の要因と保護処理、収蔵庫・保存環境—] 東京都埋蔵文化財センター, 2012年11月21日

山峰潤也

トーク「ミュージアム・トリップ vol.3 ～対話式鑑賞法って何?!」、トーキョーカルチャーカルチャー, 2012年4月21日

トーク「なみゆくながら、着かず、離れず」展関連イベント, アーツ千代田3331 アキバタマビ21, 2012年7月21日

“Serendipity in Japanese digital-electric expression,” International Festival for Computer Art, Maribor, Oct. 13, 2012

トーク「グレート・ノーザン」展(タリン・ギル個展), XYZ collective, 2012年10月27日

トーク「ニッポン建設映像祭」新世界番外編, 音楽実験室新世界, 2012年11月6日

トーク「The colossus drive and the black sun」(川久保ジョイ個展), hpgrp GALLERY TOKYO, 2012年11月16日

【非常勤講師等】

笠原美智子

東京芸術大学「写真映像論」2012年5月8日

九州産業大学「写真特殊演習」2012年7月5日、6日

金子隆一

東京総合写真専門学校「合評演習」通年

武蔵野美術大学芸術文化学科「写真論Ⅰ」前期、「写真論Ⅱ」後期

武蔵野美術大学映像科大学院「写真特論Ⅱ」通年

北澤ひろみ

東京芸術大学「写真映像論」2012年5月15日、22日

鈴木佳子

跡見学園女子大学文学部現代文化表現学科「写真論」2012年前期

関次和子

東京工芸大学「作品研究Ⅰ」2012年7月12日

田坂博子

東京藝術大学大学院映像研究科講義「現代芸術論」2012年12月19日

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流・美術」2012年前期

藤村里美

玉川大学芸術学部ビジュアル・アーツ科「写真史」2012年前期

武蔵大学人文学部ヨーロッパ文化学科「イメージ文化論／イメージ文化論Ⅰ」2012年後期

三井圭司

明治学院大学「写真集 写真理論研究」通年

米崎清実

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科「地域遺産マネジメント論」2012年度前期

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科「文化環境創造論」2012年度後期

法政大学通信教育課程文学部史学科「史学演習」冬期スクーリング設置科目

山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習Ⅰ 写真技術」春・秋学期集中講義

東京文化財研究所、保存担当学芸員研修「劣化と保存 各論－写真－」2012年7月13日

京都工芸繊維大学「科学と芸術の出会いⅡ」2012年12月22日

山峰潤也

東洋美術学校「博物館経営論」2012年前期・後期

東京家政大学「映像表現A 写真」2012年11月9日、13日

【委員・審査員等】

岡村恵子

愛知芸術文化センター「平成24年度オリジナル映像作品制作作家選定委員会」委員

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員（美術・工芸部会）、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員（写真部門）、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、東川賞審査員（東川町）、財団法人アサヒビール芸術文化財団助成選考委員、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、nominator for the Prix Pictet Award、公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員、jury for Three Shadows Photography Award, Beijing、nominator for the Foam Paul Huf Award 2013, Amsterdam、nominator for The Grange Prize 2013, Canada

金子隆一

日本写真芸術学会理事、文化審議会専門委員、松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員、高浜市やきもの里かわら美術館運営審議会委員、横浜市美術資料収集審査委員、日本写真保存センター諮問調査委員、芸術選奨審査委員、公益財団法人河鍋暁斎記念美術館理事

関次和子

横浜市美術資料価格評価委員

丹羽晴美

公益社団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、福島市写真美術館企画専門委員、高知県立美術館石元泰博作品等利活用検討専門委員

三井圭司

横浜市あざみ野市民ギャラリー評価委員会評価委員

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト事務局長

米崎清実

関東近世史研究会評議員、法政大学史学会評議員

山口孝子

日本写真学会監事、日本写真学会編集委員、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員、国立国会図書館資料保存懇話会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

インターン及び研究者

写真美術館では平成20年度よりインターン制度を導入している。1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材を育成することに寄与することを目的としている。第5期となった平成24年度のインターン生及び担当業務は以下のとおりである。

インターン

飯田直人

担当業務：「映像をめぐる冒険 vol. 5 記録は可能か。」展補助
恵比寿映像祭補助
指導学芸員：田坂博子

亀海史明

担当業務：「光の造形～操作された写真～」展「北井一夫 いつか見た風景」展・韓国東江写真美術館展補助、作品貸出補助
指導学芸員：藤村里美

潘夢斐

担当業務：「操上和美 時のポートレート」展、「アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密」展補助
指導学芸員：丹羽晴美

三浦陽子

担当業務：教育普及事業・スクールプログラム、展覧会（「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」展、次年度新進作家展）補助
指導学芸員：石田哲朗

山田亜沙

担当業務：恵比寿映像祭補助
指導学芸員：岡村恵子

若杉紗愛

担当業務：「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」展補助
指導学芸員：三井圭司
（期間：平成24年4月～平成25年2月）

広報事業

平成24年度は、海外に向けた広報を見直すとともに、よりユニバーサルな広報を実践した一年であった。お客様やプレスとのつながりを大切に、美術館を楽しんでいただくためのわかりやすい広報を積極的に実践した。

- 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行
(vol.74～vol.77) 季刊、発行部数：各号30,000部
＜巻頭記事＞
74号「操上和美 時のポートレイト」
75号「日本の新進作家vol.11 この世界とわたしのどこか」
76号「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」
77号「日本写真の1968」



ニュース74～77号表紙

2 ホームページの活用

平均アクセス数は約42万ページビュー（以下PV）を推移した。スマートフォン対応のためフラッシュを廃止したことにより、サイト構成の都合でPV数の減少が生じ、より実数に近いカウントになったと思われる。展覧会関連イベントの告知強化のため「お知らせ欄」を新設し集客に効果を発揮した。開館時間をトップページにわかりやすく表示した。公式ツイッターを開設した。また英語ページの内容充実を図るとともに、写真美術館の海外巡回展情報を広く発信した。

24年度のメンテナンスは、現在のホームページをさまざまな端末でスムーズに閲覧できるようハード面の整備を検討している。

東京都写真美術館公式ホームページ www.syabi.com

- 3 プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応
リリース件数は各回約680件。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアーの立ち会いなどをおこなった。すべての展覧会に英語プレスリリースを用意し、海外プレスのリクエストに応じてより詳しい英語資料を用意するなど、個別対応を心がけた。
- 4 チラシ・ポスターの配布
マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配架を強化した（各回約300件）。
- 5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出
JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。



懸垂幕掲出例



ディスプレイシート掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告 (年契分)

年間を通じて首都圏JR・東武線の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵比寿スカイウォーク内電飾広告を行った。



恵比寿スカイウォーク内電飾広告掲載例

(2) 交通広告 (年契以外)

展覧会B1ポスターのクリエイティブに応じて、年契以外の掲出を実施した。主要美術館付近での露出を増やすことで、効果的な集客を目指した。

(ア) 「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」

掲載期間：5月7日～5月20日 (乃木坂は別途)

掲出場所：7ヶ所 (各所2枚掲出、計14枚) 東京メトロ 表参道 (23番)、表参道 (4番)、銀座 (5番)、六本木 (3番)、六本木 (10番)、東京 (4番)、乃木坂 (6番、5/7～、6/4～ 各1週間)

(イ) 「田村彰英 夢の光」、「自然の鉛筆 技法と表現」

掲出場所と掲出期間：7ヶ所 (各所2枚掲出、計14枚)

東京メトロ 表参道 (11番、8/1～14)、竹橋 (1番、8/1～14)、銀座 (5番、8/6～19)、六本木 (3番、8/8～21)、六本木 (11番、7/30～8/12)、東京 (4番、7/30～8/12)、乃木坂 (6番、8/1～14)

(ウ) 「北井一夫 いつか見た風景」、「日本の新進作家 vol.11 この世界とわたしのどこか」、「映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。」

掲出場所と提出期間：5ヶ所

東京メトロ 竹橋 (1番、4連、12/26～1/8)、六本木 (14番、4連、12/10～16)、六本木 (12番、4連、12/24～1/6)、東京 (4番、4連、12/17～12/23)、乃木坂 (6番、1枚、12/5～18)、京王初台 (7番、3連、12/18～24)

(エ) 「アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密」

掲出場所と掲出枚数：6ヶ所 (各所2枚掲出、乃木坂は別途)

初台 (7番、4/12～4/25)、みなとみらい (4番、3/6～3/19)、六本木 (10番、3/4～3/10)、六本木 (都営5番、3/5～3/11)、竹橋 (1番、3/13～3/26)、乃木坂 (6番、3/20～4/2 1枚)



(2) (ア) B1ポスター掲出例 乃木坂駅



(2) (ウ) ポスター掲出例 京王初台駅

(3) 広告掲出

展覧会やイベントを広く告知するために、広告を掲載した。

新聞広告の掲出は以下のとおり。

(ア) 「フェリーチェ・ベアトの東洋」 ゴールデンウィーク告知

朝日新聞 平成24年4月24日 (火)

東京本社版夕刊 (約210万部) アート欄下 半5段

(イ) 「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」

朝日新聞 平成24年5月9日 (水)

東京本社版夕刊 (約210万部) アート欄下 半5段

(ウ) 「田村彰英 夢の光」

読売新聞 平成24年7月24日 (火)

東京本社版夕刊

シティライフ面 突き出しカラー (約220万部)

(エ) 「田村彰英 夢の光」

朝日新聞 平成24年7月25日 (水)

東京本社版夕刊 (約210万部) アート欄下 半5段

(オ) 「操上和美 時のポートレート」

朝日新聞 平成24年9月26日 (水)

東京本社版夕刊 (約210万部) アート欄下 半5段

(カ) 「操上和美 時のポートレート」

朝日新聞 平成24年10月10日 (水)

東京本社版朝刊 (約380部) 10段 カラー

(キ) 「北井一夫 いつか見た風景」

朝日新聞 平成24年11月21日 (水)

東京本社版夕刊 (約210万部) アート欄下 半5段

- (ク)「映像をめぐる冒険vol.5 記録は可能か。」
朝日新聞 平成24年12月5日(水)
東京本社版夕刊(約210万部) アート欄下 半5段
- (ケ)「日本の新進作家vol.11 この世界とわたしのどこか」
東京新聞 平成24年12月6日(木)、13日(木)、
平成25年1月1日(火・祝)計3回
朝刊全5段広告カラー(美術館・博物館情報下)各
545,577部
- (コ)「お正月特別開館」
朝日新聞 平成24年12月31日(月)
東京本社版朝刊(約380万部) 5段1/4(記事下)
読売新聞 平成24年12月31日(月)
東京本社版朝刊(約540万部) 5段1/4(記事下)
- (サ)「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・
東北編」
読売新聞 平成25年3月5日(火)
東京本社版夕刊(約220万部) 美術館企画 4段
1/5
- (シ)「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・
東北編」
朝日新聞 平成25年3月13日(水) 東京本社版夕刊
(約210万部) アート欄下 半5段
- (ス)「アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密」
朝日新聞 平成25年3月13日(水)
東京本社版夕刊(約210万部) アート欄下 半5段



「操上和美 時のポートレート」掲載広告



「日本の新進作家vol.11 この世界とわたしのどこか」掲載広告

このほか、webサイトQINRA.NET(「川内倫子」「操上和美」)、アドカード(「アーウィン・ブルーメンフェルド」)、『Photographer's Gallery Press』1ページ(「日本の新進作家」)などを出稿した。

7 記者懇談会の実施

(1) 記者懇談会①

平成24年6月12日(火) 16:00～18:00

出席者数：19社22名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成23年度事業実績報告

平成24年第事業計画の紹介

平成24年度企画展の紹介

【第2部】4階会議室

懇親会

本年度より会場をカフェから4階会議室に変更し、職員
の顔の見えるおもてなしを実践した。

(2) 記者懇談会②

平成25年1月17日(木) 16:30～19:30

出席者数：15社21名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成23年度事業外部評価の報告

平成24年度事業実績(12月末時点)ほか

平成25年度企画の紹介

平成24年度新規収蔵作品の紹介

【第2部】2階作業室・3階作業室

平成24年度新規収蔵作品の実見

懇親会(4階会議室)



記者懇談会②懇親会の様子

8 プレス向けギャラリーツアーの実施

すべての収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日(特別鑑賞会がない場合は展覧会初日前日)に、プレス向けギャラリーツアーを開催。学芸員と作家自身による展覧会説明を積極的に行った。(全12回)



「自然の鉛筆 技法と表現」
プレスツアー



「田村彰英 夢の光」プレスツアー

9 セット券販売促進キャンペーンの実施（2回）

企画展と収蔵展の両方の観覧をお薦めするキャンペーンを実施した。従来の「セット券」「チョイス券」をPRするとともに、見やすい料金表や入口付近のPOPを制作し、来館者が写美を幅広く楽しむ雰囲気づくりを心がけた。

実施日：①平成24年5月12日(土)～7月8日(日)

②平成24年12月11日(火)～

平成25年1月27日(日)

「しゃび割」キャンペーン実施。セット券購入者に抽選でグッズやカフェ券のプレゼントや、アンケートを実施。

セット券	料金
一期	1,600円
二期	1,350円
三期	1,000円

「しゃび割」キャンペーン料金表



「しゃび割」キャンペーンPOP

10 鑑賞ガイドの制作・配布

コレクション展のPRとして、鑑賞ガイドを制作し、展示のメイン作品を親しみやすい文章とイラストで紹介した。ミニチラシと鑑賞ガイドを兼ねた広報物として、お客様アンケートやブログなどで話題となった。

実施日：「自然の鉛筆 技法と表現」

平成24年7月14日(土)～9月17日(月・祝)

10,000部

「機械の眼 カメラとレンズ」

平成24年9月22日(土・祝)～11月18日(日)

10,000部

「アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密」

平成25年3月5日(火)～(ホームページ)



鑑賞ガイド「自然の鉛筆」



鑑賞ガイド「機械の眼」



11 年始特別開館

平成25年の正月特別開館では、1月2日は入場無料、3日は割引料金を設定した。期間中(1月2日～4日)は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、プレゼントなどを用意し、来館者が一日をとおして美術館で楽しく過ごせる工夫をした。



写美のお正月 館内ポスター



お正月開館風景 2013/1/2
 (しゃび雅楽)



お正月開館風景 2013/1/2
 (「記録は可能か。」展レクチャー)



お正月開館風景 2013/1/4
 (「北井一夫」展レクチャー)



お正月開館風景 2013/1/4
 (「日本の新進作家」展レクチャー)

12 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」vol.16～vol.27発行
 月刊、発行部数：各号30,000部およびホームページ掲載
 展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」
 の別冊として「nya-eyes」(ニアイズ)を刊行。漫画「ク
 レムリン」(カレー沢薫、講談社)の漫画とコラボレーシ
 ョンし、若年層を中心に新しい来館者層を開拓した。



ニアイズ表紙

13 「nya-eyes (ニアイズ)」を使った来館キャンペーンの実施

(1) ゴールデンウィーク来館促進

期間：平成24年4月24日(火)～5月6日(日)

特典：①写真美術館友の会会員の方に「友の会特製ニア
 イズシール」をプレゼント ②ミュージアムショ
 ュップ ナディッフバイテンで商品をお買い上げの
 方に「特製関羽シール」をプレゼント

(2) ミュージアムショップ利用促進

期間：平成24年9月21日(金)～ 限定200部

特典：書籍をお買い上げの方に「特製オリジナルブック
 カバー」を進呈

(3) 3月来館キャンペーン

期間：平成25年2月22日(金)～24日(日)

特典：ミュージアムショップでサイン色紙配布・展示、
 第5回恵比寿映像祭PRなど

14 フロアガイド・概要の改訂

フロアガイドを日英バイリンガルに刷新。概要は収蔵作品
 数などデータを修正して増刷した。

15 恵比寿地域における連携キャンペーンの実施

恵比寿地域の活性化と集客を目的に、恵比寿ガーデンプレ
 イスやJR恵比寿駅などと頻りにミーティングを行った。各
 施設が連携してキャンペーンやイベントを行った。

開催したイベント

(1) 「Welcome!恵比寿」

実施期間：平成25年3月上旬

内容：新しく恵比寿を訪れる人に恵比寿周辺施設を紹
 介。参加施設各所にポスターを掲示し、実施期間に開催
 中の展覧会を告知した。

参加施設：恵比寿ガーデンプレイス、アトレ恵比寿、エ
 ビスビール記念館、東京都写真美術館、山種美術館、恵
 比寿三越

(2) 「駅からハイキング～恵比寿・六本木 カメラ片手に街 歩き」

実施期間：平成24年10月4日(木)～10月31日(水)

内容：JR恵比寿駅を基点に街の回遊を提案。イベント
 参加者は団体料金で展覧会観覧できるサービスを提供し
 した。

参加施設：山種美術館、國學院大學、東京ミッドタウン、
 SQUARE FUJIFILM、恵比寿ガーデンプレイス、アト
 レ恵比寿、エビスビール記念館、東京都写真美術館、恵
 比寿三越